Canon

EOS Kiss X50

巻末に「ソフトウェアスタートガイド」と「クイックガイド」を
掲載しています。

使用説明書

Canon
EOS Kiss X50
使用説明書
J

はじめに

EOS Kiss X50 は、有効画素数約1220万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 4、高精度・高速9点AF、最高約3コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、ハイビジョン（HD）動画撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（14、15ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

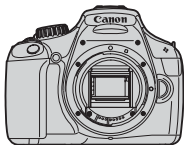
著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

このカメラでは、SDメモリーカードとSDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードをお使いいただけます。本書では、これらを「カード」と表記しています。

※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

使用する前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（アイカップ、ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E10
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E10

ワイドストラップ
EW-200D

インターフェースケーブル

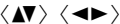
EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

①

②

① **カメラ使用説明書**（本書）
② **お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意**

※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

ソフトウェア使用説明書について

ソフトウェアの使用説明書は、電子マニュアル（PDF形式）でCD-ROMに収録されています。ソフトウェア使用説明書の参照方法は、272ページをご覧ください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

〈電子ダイヤル〉 ：電子ダイヤルを示しています。

〈▲▼〉〈◄►〉 ：〈✣〉十字キーのボタンを示しています。

〈SET〉 ：設定ボタンを示しています。

⏱4／⏱6／⏱10／⏱16 ：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU ：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 ：ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.22）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

💡 ：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

? ：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

! ：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

📝 ：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（p.31）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II レンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

やりたいこと目次

撮影

画質

- たくさん写真を撮りたい → p.74（◢S1、◢S1、S2、S3）

ピント合わせ

- ピントを合わせる位置を変更したい → p.83（AFフレーム選択）
- 動いている被写体を撮影したい → p.61、82（AIサーボAF）

再生

- 写真をカメラで見たい → p.70（再生）
- 写真を素早く探したい → p.176（インデックス表示）
  p.177（画像送り）
- お気に入り度を設定したい → p.180（レーティング）
- 大事な写真を誤って消さないようにしたい → p.194（プロテクト）
- 不要な写真を消したい → p.196（消去）
- 写真や動画を自動再生したい → p.189（スライドショー）
- 写真や動画をテレビで見たい → p.191（ハイビジョンテレビ）
- 液晶モニターの明るさを調整したい → p.155（液晶モニターの明るさ）

印刷

- 写真を簡単に印刷したい → p.201（ダイレクトプリント）

機能目次

露出調整

ストロボ

ライブビュー撮影

動画撮影

再生

印刷

カスタマイズ

ソフトウェア

目　次

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点を、指や金属で触らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

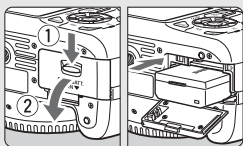
長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

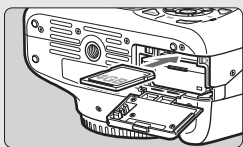
撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

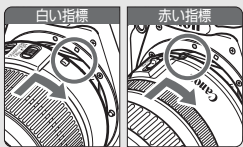
すぐ撮影するには

1

電池（バッテリー）を入れる（p.28）

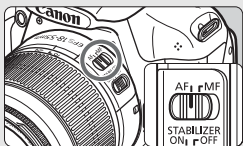
●電池の充電方法については 26 ページを参照してください。

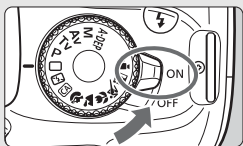
2

カードを入れる（p.28）

●カードの表をカメラの背面側にして差し込みます。

3

レンズを取り付ける（p.35）

●レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

4

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.35）

5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.31）

●液晶モニターに日付 / 時刻の設定画面が表示されたときは、33ページを参照してください。

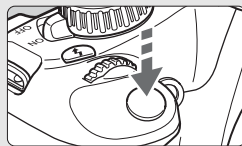
モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.50）

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.39）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- 必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8

撮影する（p.39）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.154）

- 撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.70）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.121）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.70）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.196）を参照してください。

各部の名称

太字は、『かんたん撮影と画像確認』までの説明に使用する各部の名称です。

〈Av⊠／㎥〉絞り数値／露出補正ボタン／消去ボタン(p.97／101／196)
視度調整つまみ(p.38)
アイカップ(p.229)
ファインダー接眼部
〈DISP.〉ディスプレイボタン(p.46、70、124、142、163)
〈✱／⊞·Q〉AEロック／FEロックボタン／インデックス／縮小ボタン(p.105／106／176／178、209)
〈⊡／⊕〉AFフレーム選択ボタン／ 拡大ボタン(p.83／178、209)
スピーカー(p.186)
液晶モニター(p.42、155)
DCコード通し部(p.228)
〈◘〉ライブビュー撮影／動画撮影ボタン(p.122／140)
カード/電池室ふた(p.28)
アクセスランプ(p.30)
〈Q／⎙〉クイック設定ボタン／イージープリントボタン(p.40／207)
カード/電池室ふた開放レバー(p.28)
三脚ねじ穴
〈▶〉再生ボタン(p.70)
〈MENU〉メニューボタン(p.42)
〈SET〉設定ボタン(p.42)
〈✥〉十字キー(p.42)
〈▲ISO〉 ISO感度設定ボタン(p.77)
〈▼WB〉 ホワイトバランス選択ボタン(p.115)
〈◀⊒／ᴤ〉 ドライブモード選択ボタン(p.86、87)
〈▶AF〉 AFモード選択ボタン(p.81)
カードスロット(p.28)
電池室(p.28)
Canon
ISO
AF
WB
MENU
SET
DISP.

撮影機能の設定状態表示（応用撮影ゾーン時／p.22）

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

　モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンと、動画撮影モードがあります。

応用撮影ゾーン

　思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラムAE（p.72）
Tv　：シャッター優先AE（p.92）
Av　：絞り優先AE（p.94）
M　：マニュアル露出（p.97）
A-DEP：自動深度優先AE（p.99）

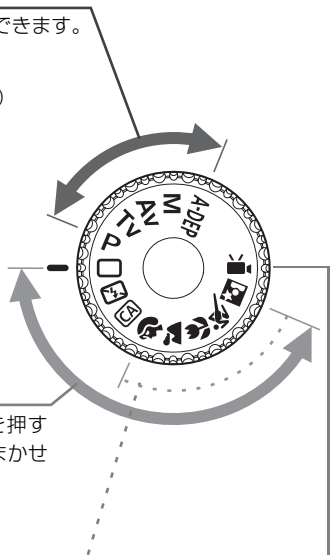
かんたん撮影ゾーン

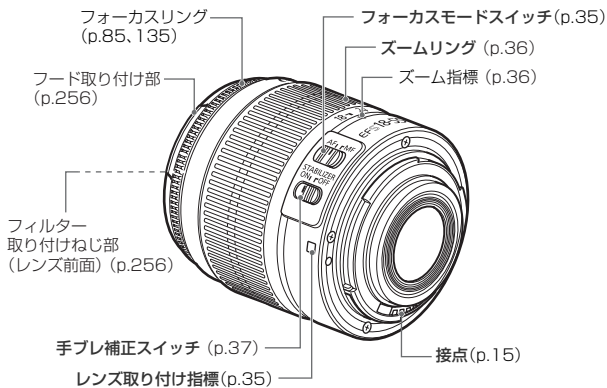
　基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの撮影ができます。

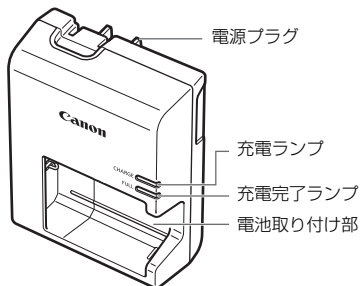
：**全自動**（p.50）
：**ストロボ発光禁止**（p.54）
：**クリエイティブ全自動**（p.55）

イメージゾーン

：ポートレート（p.58）
：風景（p.59）
：クローズアップ（p.60）
：スポーツ（p.61）
：夜景ポートレート（p.62）

：**動画撮影**（p.139）

レンズ

距離目盛が付いていないレンズの例

バッテリーチャージャー LC-E10

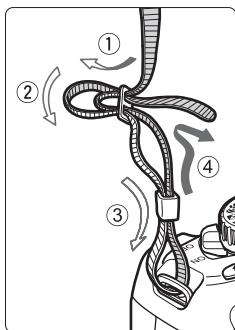
バッテリーパック LP-E10の充電器です（p.26）。

注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

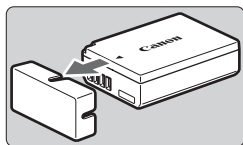
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

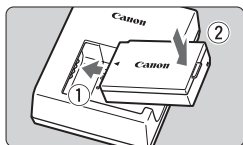
撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

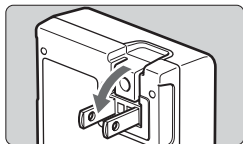
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

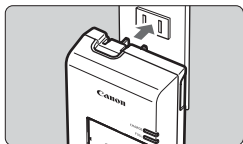
- ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.229）。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

● 付属の保護カバーを外します。

2 電池を取り付ける

● 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。

● 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

● 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

充電完了ランプ

充電ランプ

4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。

➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。

➡ 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。

● **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**

● 安全に充電を行うために、低温下（+6℃～+10℃）では、充電時間が長く（最長約4時間）になります。

電池と充電器の上手な使い方

● 購入時、電池はフル充電されていません

充電してからお使いください。

● 充電は、使用する当日か前日にする

充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● 充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く

● カメラを使わないときは、電池を取り出しておく

電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● 充電器は海外でも使うことができる

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です

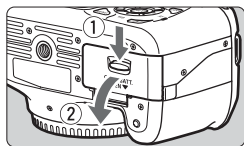
新しい電池をお買い求めください。

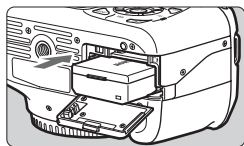
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリーパック LP-E10以外は充電しないでください。
- バッテリーパック LP-E10は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

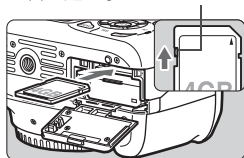
電池とカードを入れる／取り出す

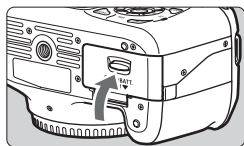
充電したバッテリーパックLP-E10をカメラに入れます。カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。撮影した画像はカードに記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 カードを入れる

- **図のように、カードの表をカメラの背面側にします。**
- まっすぐに、突き当たるまで差し込みます。

4 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数（p.32）が表示されます。

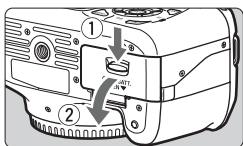
カード/電池室ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

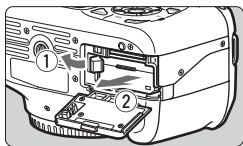
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- ［**カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.154）。

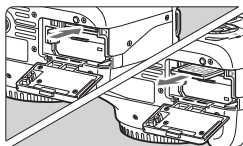
取り出し方

1 電源スイッチを〈OFF〉にする（p.31）

2 ふたを開ける

- **アクセスランプが消えていることを確認して、ふたを開きます。**
- 「書き込み中」と表示されたときは、ふたを閉じてください。

3 電池を取り出す

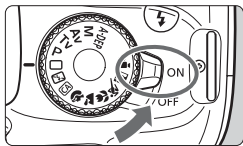
- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバー（付属／p.26）を取り付けてください。

4 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。

5 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード/電池室ふたを開けないでください。**
  また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.158）。
- カードの接点は、指や金属が触れないように注意してください。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.44)。正常な状態に戻ることがあります。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻の設定画面が表示されたときは、33ページを参照して日付/時刻を設定してください。**

〈ON〉：カメラが作動します。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約30秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.39）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、［**オートパワーオフ**］で変更することができます（p.155）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、4段階で表示されます。

：電池の残量は十分です。

：電池の残量が半分以下になっています。

：まもなく電池切れになります。（点滅表示）

：電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	約800枚	約750枚
50%ストロボ撮影	約700枚	約650枚

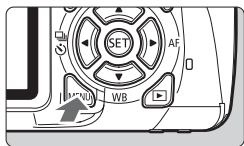
● 撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E10使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

● 下記の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
・シャッターボタン半押し状態を長く続ける。
・AFのみ行って撮影しない操作を頻繁に行う。
・液晶モニターを頻繁に使用する。
・レンズの手ブレ補正機能を使用する。

● レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。

● ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、123ページを参照してください。

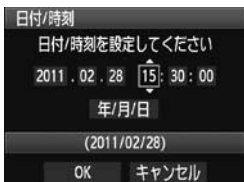
MENU 日付／時刻を設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻の設定が解除されているときは、電源を入れると日付/時刻の設定画面が表示されますので、手順3、4の操作で設定してください。なお、**撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。**

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 ［🔧］タブの［日付/時刻］を選ぶ

● 十字キーの〈◄►〉を押して［🔧］タブを選びます。
● 十字キーの〈▲▼〉を押して［**日付/時刻**］を選び、〈(SET)〉を押します。

日付/時刻
日付/時刻を設定してください
2011 . 02 . 28 15: 30 : 00
年/月/日
(2011/02/28)
OK キャンセル

3 日付/時刻を設定する

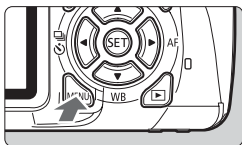
● 十字キーの〈◄►〉を押して項目を選びます。
● 〈(SET)〉を押して、〈⬍〉の状態にします。
● 十字キーの〈▲▼〉を押して設定し、〈(SET)〉を押します（▫の状態に戻ります）。

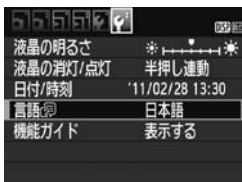
4 設定を終了する

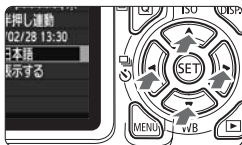
● 十字キーの〈◄►〉を押して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
➡ 日付/時刻が設定されます。

カメラから電池を取り出して保管したり、カメラの電池残量がなくなったときは、日付/時刻の設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。

設定した日付/時刻のカウントは、手順4で〈(SET)〉を押したときに始まります。

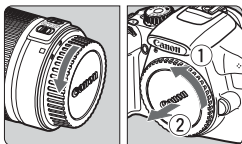
MENU 表示言語を選ぶ

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 [🔧]タブの[言語]を選ぶ

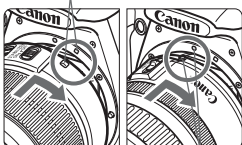
● 十字キーの〈◄►〉を押して[🔧]タブを選びます。
● 十字キーの〈▲▼〉を押して、[**言語**](上から4番目の項目)を選び、〈SET〉を押します。

3 言語を設定する

● 十字キーの〈▲▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。
➡ 表示言語が切り換わります。

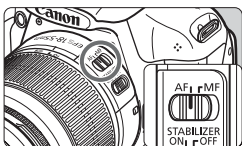
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

白い指標

赤い指標

2 レンズを取り付ける

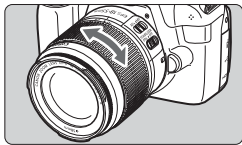
- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（Auto Focus：自動ピント合わせ）にする

- 〈MF〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

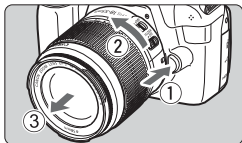
4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

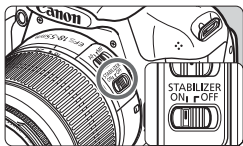
- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

レンズの手ブレ補正機能について

ISレンズに内蔵された手ブレ補正機能を使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II レンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈ON〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

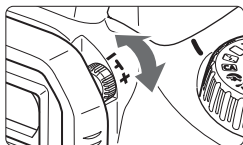
3 撮影する

● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉どちらのときでも働きます。
● 三脚使用時は、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすると、電池の消耗を防ぐことができます。
● 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。
● 手ブレ補正機能付きレンズの中には、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードを任意に切り換えることができるレンズがありますが、EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II では、モード切り換えは自動的に行われます。

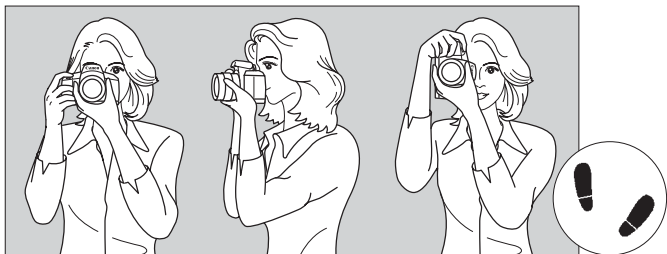
撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

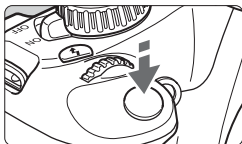
カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

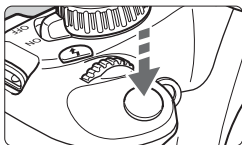
液晶モニターを見ながら撮影するときは、121ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます（⏱4）。

シャッターボタン半押し中は、液晶モニターが消灯します（p.166）。

全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

- ・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- ・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- ● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- ● メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。

1 〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります（⏱10）。

2 機能を設定する

● 〈✥〉十字キーを押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。

● 〈⚙〉を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン

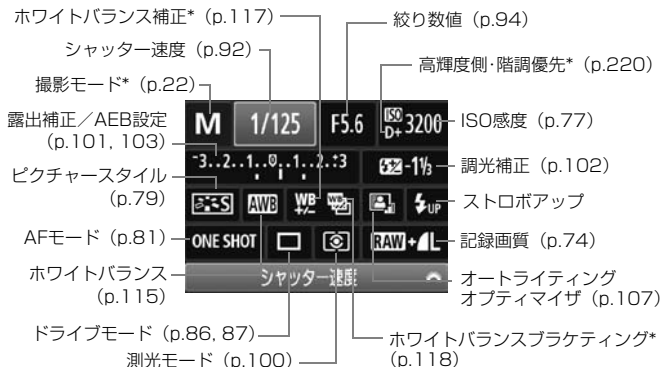
応用撮影ゾーン

3 撮影する

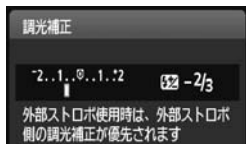
● シャッターボタンを押して撮影します。

➡ 撮影した画像が表示されます。

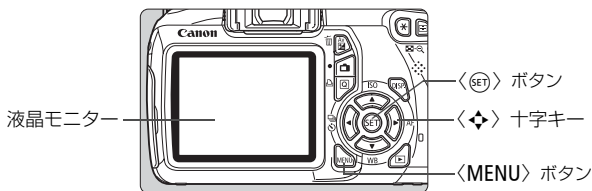
かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、63ページを参照してください。

クイック設定できる機能

- *印の機能は、クイック設定できません。
- 〈$UP〉を選んで〈SET〉を押すと、内蔵ストロボが上がります。

設定画面について

〈SET〉

- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◄►〉または〈ダイヤル〉で設定を変更します。さらに〈DISP.〉ボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、撮影機能のクイック設定の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

　このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈✥〉十字キー、〈(SET)〉ボタンを使って行います。

メニュー画面

　かんたん撮影ゾーンと動画撮影モード、応用撮影ゾーンでは、表示されるタブやメニュー項目が異なります。

かんたん撮影ゾーン

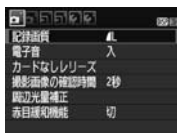
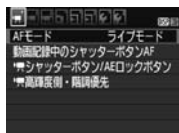
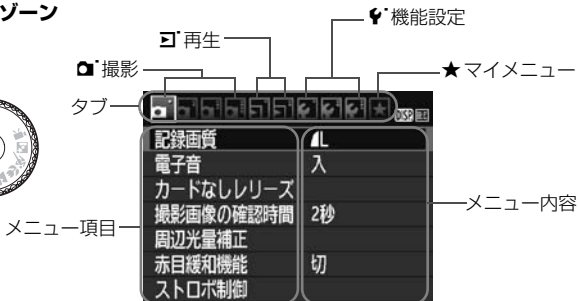
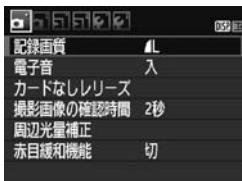
記録画質 L
電子音 入
カードなしレリーズ
撮影画像の確認時間 2秒
周辺光量補正
赤目緩和機能 切

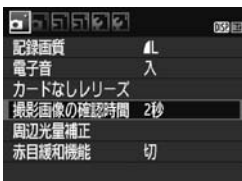
動画撮影モード

AFモード ライブモード
動画記録中のシャッターボタンAF
シャッターボタン/AEロックボタン
高輝度側・階調優先

応用撮影ゾーン

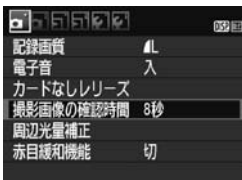
撮影
再生
機能設定
★マイメニュー
タブ

メニュー項目	メニュー内容
記録画質	L
電子音	入
カードなしレリーズ	
撮影画像の確認時間	2秒
周辺光量補正	
赤目緩和機能	切
ストロボ制御	

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

● 〈◄►〉を押してタブ(系統)を選びます。

3 項目を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

● 〈▲▼〉または〈◄►〉で内容を選びます。(〈▲▼〉で選ぶ内容と、〈◄►〉で選ぶ内容があります)
● 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

● 〈SET〉を押すと設定されます。

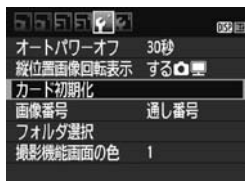
6 設定を終了する

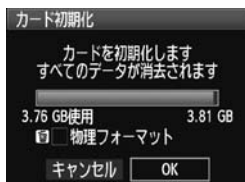
● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

● 手順2は〈ダイヤル〉を回してタブを選ぶこともできます。
● これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
● メニュー機能の内容は、234ページを参照してください。

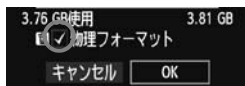
MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）を行ってください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。

2 初期化する

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときに［カード初期化］を行います

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき**
- **カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき**（p.250）

物理フォーマットについて

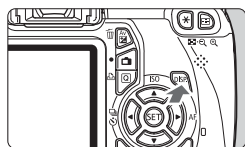
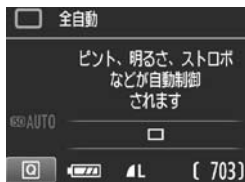
- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

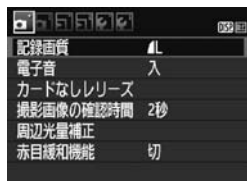
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

液晶モニターの表示切り換え

液晶モニターには、撮影機能の設定状態や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。

撮影機能の設定状態

- 電源スイッチを入れると、撮影機能の設定状態が表示されます。
- **シャッターボタンを半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。**
- **〈DISP.〉ボタンを押して表示を消すこともできます。**もう一度押すと表示されます。

メニュー機能

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

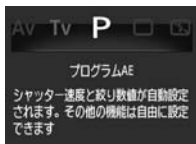
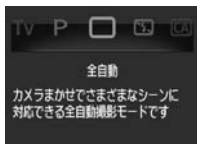
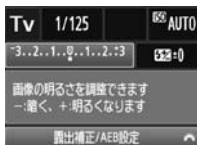
撮影した画像

- 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

- ［**¥: 液晶の消灯/点灯**］で、撮影機能の設定状態の表示が、消えたり点いたりしないようにすることができます（p.166）。
- メニュー機能や撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影することができます。

機能ガイドについて

撮影モードを変更したときや、撮影機能／ライブビュー撮影／動画撮影／再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に操作を続けると説明は消えます。

● **撮影モード**（例）

● **クイック設定**（例）

撮影機能

ライブビュー撮影

再生

MENU 機能ガイドを表示しないようにする

［機能ガイド］を選ぶ

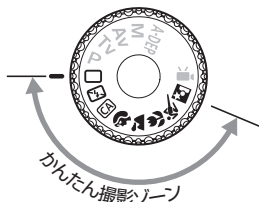
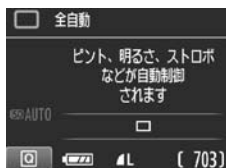
● ［🔧］タブの［**機能ガイド**］を選び、〈SET〉を押します。［**表示しない**］を選び〈SET〉を押します。

2

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます（p.63、232）。また、誤操作による失敗を防ぐため、主要な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。

全自動
ピント、明るさ、ストロボ
などが自動制御
されます
AUTO
4L
[703]

オートライティングオプティマイザ機能について

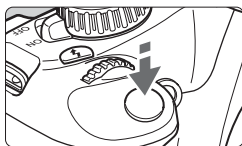
かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能（p.107）が働きます。応用撮影ゾーンでも初期状態で機能します。

□ 全自動で撮る

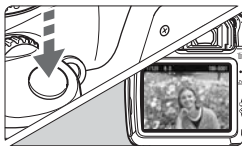
1 モードダイヤルを〈□〉にする

AFフレーム

2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべての AF フレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- 中央の AF フレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレーム内の点が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

合焦マーク

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

● **合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない**

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.39）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● **複数のAFフレームが同時に光る**

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離の目安は4m以内です。

● **ストロボが発光したのに暗い写真になった**

写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🏃〉スポーツを除く）。

動いているものを撮影する

〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

〈 〉ボタンを押すと、液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。これをライブビュー撮影といいます。詳しい撮影方法は、121ページを参照してください。

1 液晶モニターに映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

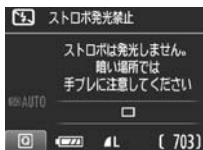
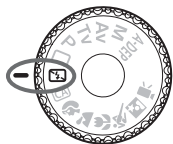
2 ピントを合わせる

- 画面中央のAFフレーム〈□〉を被写体に合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈 〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

ストロボが使えない場所で写す

美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈 〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。

撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

〈CA〉 クリエイティブ全自動で撮る

〈□〉全自動モードでは、すべてカメラまかせの撮影ですが、〈CA〉クリエイティブ全自動モードでは、ピントが合う範囲やドライブモード、ストロボの発光を簡単な操作で変えることができます。

また、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈□〉（全自動）と同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す（☼10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

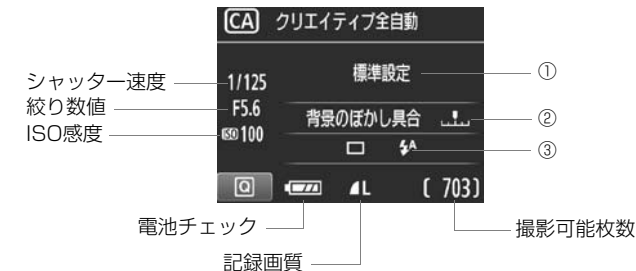
● 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。

● 機能の設定方法と内容については、56、57ページを参照してください。

4 撮影する

● シャッターボタンを押して撮影します。

撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、この画面で設定した内容が初期状態に戻ります。ただし、セルフタイマーの設定はそのまま保持されます。

〈Q〉ボタンを押すと、次の設定ができるようになります。

①雰囲気を選んで撮影する

どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈◄►〉または〈ダイヤル〉で選ぶことができます。〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。詳しくは、64ページを参照してください。

②背景をぼかす／くっきりさせる

カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。背景をぼかしたいときは、58ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。〈◄►〉または〈ダイヤル〉で選ぶことができます。

なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。また、〈ϟ〉が設定されているとき、および〈ϟA〉の設定でストロボが上がっていると設定できません（灰色表示）。ストロボ撮影時は設定が無効になります。

③ ドライブモード/ストロボの発光

〈SET〉を押すと、ドライブモード、またはストロボの設定画面が表示されます。
設定後、〈SET〉を押すとクイック設定に戻ります。

ドライブモード：〈◀▶〉または〈ダイヤル〉で設定します。
〈□〉**1枚撮影**：1枚だけ撮影します。
〈連続〉**連続撮影**：シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。
〈セルフ〉**セルフタイマー：10秒**：
シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
〈セルフc〉**セルフタイマー：連続撮影**：
〈▲▼〉を押して撮影する枚数（2～10）を設定します。シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。

ストロボの発光：〈◀▶〉または〈ダイヤル〉で設定します。
〈ストロボA〉**ストロボ自動発光**：必要に応じて自動的に発光します。
〈ストロボ〉**ストロボ発光**：常時ストロボが発光します。
〈発光禁止〉**ストロボ発光禁止**：ストロボは発光しません。

- 記録画質が RAW、RAW＋◢L のときは、連続撮影速度が1秒間に、それぞれ最高約2枚、約0.8枚（平均値）になります。
- 〈セルフ〉〈セルフc〉については、87ページの（ノート）を参考に撮影してください。
- 〈発光禁止〉については、54ページの『ストロボが使えない場所で写す』を参考に撮影してください。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。〈〉（全自動）よりも肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

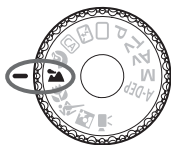
- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**
  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**
  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。

- シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約3枚：記録画質JPEG時）して表情やポーズの変化を写すことができます。
- 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

広がりのある風景や夜景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈〉（風景）を使用します。〈〉（全自動）よりも空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。

撮影のポイント

● **ズームレンズは広角側にする**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

〈〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈〉（夜景ポートレート）に設定し、三脚を使用して撮影します（p.62）。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものに、できるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの左肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

暗い場所ではストロボが発光します。近づきすぎて画面の下側が不自然に暗くなる場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

〈スポーツ〉 動きのあるものを写す

子どもの走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈スポーツ〉（スポーツ）を使用します。

撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

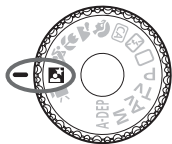
● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約3枚：記録画質JPEG時）して動きの変化を写すことができます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈 〉（夜景ポートレート）を使用します。

撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● **人物との距離は5m以内にする**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。人物との距離を5m以内にすると、ストロボ光が届きます。

● **〈□〉（全自動）でも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈□〉（全自動）でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

Q クイック設定について

例：ポートレートモード

かんたん撮影ゾーンで、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定状態になり、表に示した「○」の項目が設定できるようになります。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

2 〈Q〉ボタンを押す（10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

- 〈▲▼〉を押して機能を選びます（□/ではこの操作は不要）。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。

- 〈◄►〉または〈〉で設定を変更します。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

項目			□ (p.50)	(p.54)	CA (p.55)	(p.58)	(p.59)	(p.60)	(p.61)	(p.62)
ドライブモード	□：1枚撮影		○	○	○		○	○		○
	：連続撮影				○	○			○	
	セルフタイマー	：10秒	○	○	○	○	○	○	○	○
		c：連続撮影*	○	○	○	○	○	○	○	○
ストロボの発光		自動発光	●		○	●		●		●
		強制（常時）発光			○					
		発光禁止		●	○		●		●	
雰囲気を選んで撮影する（p.64）					○	○	○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影する（p.67）						○	○	○	○	
背景：ぼかす/くっきり（p.56）					○					

* 連続撮影枚数は、〈▲▼〉で設定してください。

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈□〉（全自動）と〈⚡̸〉（ストロボ発光禁止）を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。

雰囲気	□	⚡̸	CA	人物	風景	接写	スポーツ	夜景人物	雰囲気の効果
①標準設定			○	○	○	○	○	○	設定なし
②くっきり鮮やかに			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
③ふんわりやわらかく			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
④暖かくやさしく			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
⑤しっとり深みのある			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
⑥ほの暗くひっそりと			○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
⑦明るく			○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
⑧暗く			○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
⑨モノクロ			○	○	○	○	○	○	青／白黒／セピア

1 モードダイヤルを〈CA〉〈人物〉〈風景〉〈接写〉〈スポーツ〉〈夜景人物〉のいずれかにする

2 ライブビュー映像を表示する

- ライブビュー撮影にすると、雰囲気の効果を画面で確認することができます。
- 〈ライブビュー〉ボタンを押して、ライブビュー撮影に切り換えます。

3 クイック設定で雰囲気を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲▼〉を押して、図の［**標準設定**］を選び、画面の下側に［**雰囲気を選んで撮影する**］が表示された状態にします。
- 〈◄►〉または〈ダイヤル〉で雰囲気を選びます。

➡ 液晶モニターに、選んだ雰囲気の仕上がりイメージが表示されます。

4 雰囲気の効果を設定する

- 〈▲▼〉を押して図の項目を選び、画面の下側に［**雰囲気の効果**］が表示された状態にします。
- 〈◄►〉または〈⚙〉で効果の度合い・内容を選びます。

5 撮影する

- ライブビュー表示状態のまま撮影するときは、シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影に戻るときは、〈◘〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**標準設定**］に戻ります。

- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影される画像と完全には同じになりません。
- ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなることがあります。
- 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。［**Ÿ: 液晶の明るさ**］で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして、ライブビュー映像を見てください。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押します。〈Q〉ボタンを押すとクイック設定の状態になり、［**雰囲気を選んで撮影する**］と［**雰囲気の効果**］を設定してファインダー 撮影を行うことができます。

各雰囲気の画像特性について

① **標準設定**

各撮影モードの標準的な画像特性です。なお、〈人物〉は人物撮影、〈風景〉は風景撮影に適した画像特性になります。各雰囲気は、それぞれの撮影モードの標準設定をベースに画像特性が変わります。

② **くっきり鮮やかに**

被写体をくっきりさせる印象的な特性で、くっきり鮮やかな雰囲気の写真になります。[**標準設定**] よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

③ **ふんわりやわらかく**

被写体の強調感をおさえた特性で、ふんわりやわらかな雰囲気の写真になります。人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

④ **暖かくやさしく**

被写体の強調感をおさえた暖色系の特性で、暖かみのある、やさしい雰囲気の写真になります。人物やペットなどを暖かみのある雰囲気で撮影するときに効果的です。

⑤ **しっとり深みのある**

全体的な明るさを少しおさえながら被写体を強調した特性で、しっとり深みのある雰囲気の写真になります。人や生き物を存在感ある雰囲気で撮影するときに効果的です。

⑥ **ほの暗くひっそりと**

全体的な明るさを少しおさえた寒色系の特性で、ほの暗くひっそりとした雰囲気の写真になります。影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気で撮影したいときに効果的です。

⑦ **明るく**

明るい写真になります。

⑧ **暗く**

暗い写真になります。

⑨ **モノクロ**

モノクロ写真になります。モノクロの色は、白黒、セピア、青の3色から選択することができます。なお、[**モノクロ**] 選択時は、ファインダー内に〈**B/W**〉が表示されます

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈〉（ポートレート）と〈〉（風景）、〈〉（クローズアップ）、〈〉（スポーツ）では、明かりや状況にあわせた設定で撮影することができます。通常は［**標準設定**］で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

ライブビュー撮影時に、［**雰囲気を選んで撮影する**］（p.64）と組み合わせるときは、先に［**明かりや状況にあわせて撮影する**］の設定をしておくと、液晶モニターで仕上がりのイメージが確認しやすくなります。

明かりや状況			CA					
①標準設定				○	○	○	○	
②日なた				○	○	○	○	
③日かげ				○	○	○	○	
④くもり				○	○	○	○	
⑤電球				○		○	○	
⑥蛍光灯				○		○	○	
⑦夕焼け				○	○	○	○	

1 モードダイヤルを〈〉〈〉〈〉〈〉のいずれかにする

2 ライブビュー映像を表示する

- ライブビュー撮影にすると、仕上がりのイメージを画面で確認することができます。
- 〈〉ボタンを押して、ライブビュー撮影に切り換えます。

3 クイック設定で明かりや状況を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（☞10）。
- 〈▲▼〉を押して、図の［**標準設定**］を選び、画面の下側に［**明かりや状況にあわせて撮影する**］が表示された状態にします。
- 〈◄►〉または〈〉で明かりや状況を選びます。

➡ 液晶モニターに、選んだ明かりや状況の仕上がりイメージが表示されます。

4 撮影する

- ライブビュー表示状態のまま撮影するときは、シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影に戻るときは、〈〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［**標準設定**］に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、［**標準設定**］に切り換わります（ただし、撮影情報は設定した明かりや状況が表示されます）。
- ［**雰囲気を選んで撮影する**］と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果が活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に［**夕焼け**］は、暖かみのある色あいになりますので、設定した雰囲気の効果が活かせないことがあります。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押します。〈Q〉ボタンを押すとクイック設定の状態になり、［**明かりや状況にあわせて撮影する**］を設定してファインダー撮影を行うことができます。

各設定の効果について

① **標準設定**

　標準的な設定です。

② **日なた**

　日なたにある被写体を撮影するときに設定します。青空や緑をより自然に写したいときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

③ **日かげ**

　日かげにある被写体を撮影するときに設定します。肌が青白く写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

④ **くもり**

　くもり空の下で撮影するときに設定します。肌や風景の色が実際よりもくすんで写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

⑤ **電球**

　白熱電球下で撮影するときに設定します。白熱電球の赤色をおさえたいときに効果的です。

⑥ **蛍光灯**

　蛍光灯下で撮影するときに設定します。蛍光灯の種類に関係なく対応しています。

⑦ **夕焼け**

　夕焼けの印象的な色を残して撮影したいときに設定します。

▶ 画像を再生する

　ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、175ページを参照してください。

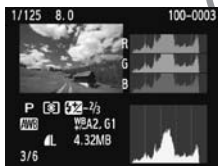
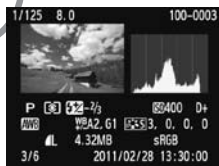
1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。
  〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

簡易情報表示

簡易情報＋画質/番号表示

ヒストグラム表示

撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

3

カメラまかせから一歩進んだ撮影

かんたん撮影ゾーンでは、失敗を防ぐため、いろいろな機能の変更ができないようになっていましたが、〈**P**〉（プログラムAE）モードでは、さまざまな機能を組み合わせ、一歩進んだ思いどおりの撮影を行うことができます。

- 〈**P**〉モードでは、標準露出になるように、シャッター速度と絞り数値が自動的に設定されます。
- かんたん撮影ゾーンと〈**P**〉モードの撮影機能の組み合わせの違いについては、232ページを参照してください。
- この章で説明する機能は、4章で説明する〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用することができます。
- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（p.22）限定の機能であることを示しています。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊**AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレーム内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。

3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

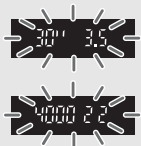
TS-E レンズを使用して上下方向のシフトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、適正露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

撮影のポイント

● **任意にISO感度を変える。内蔵ストロボを使う**

　被写体や周囲の明るさに応じてISO感度（p.77）を変えたり、内蔵ストロボ（p.88）を使います。〈P〉では、内蔵ストロボが自動的に発光しませんので、室内や暗い場所では、〈⚡〉（ストロボ）ボタンを押して内蔵ストロボを上げます（クイック設定で〈⚡UP〉を選んで上げることもできます）。

● **プログラムを変えることができる（プログラムシフト）**

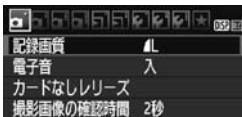
　シャッターボタンを半押ししたあと、〈メイン電子ダイヤル〉を回すと、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変えて撮影することができます。プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます。なお、ストロボ使用時はシフトできません。

● シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

● シャッター速度の「**4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

〈P〉と〈□〉（全自動）の違いについて

〈□〉では、失敗を防ぐために、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉では、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなどの機能は自由に設定することができます（p.232）。

MENU 記録画質を設定する

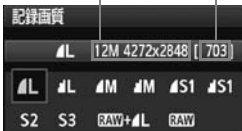
記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。記録画質は、◢L、▟L、◢M、▟M、◢S1、▟S1、S2、S3、RAW、RAW+◢Lの10種類です。

記録画素数

撮影可能枚数

1 記録画質を選ぶ

- ［◘˙］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡［**記録画質**］が表示されます。

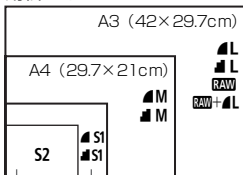
2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「記録画素数」と、「撮影可能枚数」を目安に選び、〈SET〉を押します。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質			記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
◢L	高画質	JPEG	約1220万（12.2M）	4.4	830	830
▟L				2.2	1600	1600
◢M	中画質		約630万（6.3M）	2.6	1400	1400
▟M				1.4	2630	2630
◢S1	低画質		約340万（3.4M）	1.7	2130	2130
▟S1				0.9	4060	4060
S2			約250万（2.5M）	1.2	2880	2880
S3			約35万（0.35M）	0.3	11280	11280
RAW	高画質		約1220万（12.2M）	16.7	210	5
RAW+◢L				16.7+4.4	170	1

* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**

? こんなときは

● 印刷する用紙サイズで記録画質を選びたい

図を目安に記録画質を選んでください。撮影後にトリミング（画像の切り抜き）をするときは、記録画素数の多い L、L、RAW、RAW＋Lをおすすめします。

なお、S2は市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。S3は電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

● 、 の違いは？

圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、の方がきれいです。を選ぶと画質は少し落ちますが、よりもカードに多く記録できます。なお、S2、S3はともに（ファイン）の画質です。

● 表記されている撮影可能枚数よりも多く撮影できた

撮影条件によっては、表記の枚数よりも多く撮影できることがあります。逆に、撮影できる枚数が少なくなることもありますので、目安としてとらえてください。

● 連続撮影可能枚数（バースト撮影枚数）は、カメラに表示される？

ファインダー内右端の数字が連続撮影可能枚数です。ただし、**0**〜**9**の1桁表示なので、連続撮影できる枚数が、8枚以下になるまで「**9**」表示のままです。なお、この数値はカードが入っていないときにも表示されますので、カードを入れずに撮影しないよう注意してください。

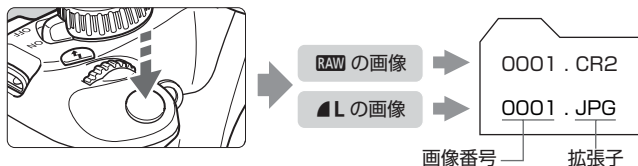
● RAWはどういうときに使うの？

RAWはパソコンで処理が必要な画像です。詳しくは、次ページの『RAWについて』と『RAW＋Lについて』をお読みください。

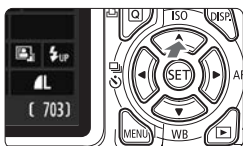
RAWについて

RAWは、◢Lなどの画像を作り出す前の生データです。付属ソフトウェアDigital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル／p.270）などを使わないとパソコンで見ることができませんが、◢Lなどではできないさまざまな画像調整を行うことができます。1枚の作品をじっくり創り上げたいときや、大切な撮影で使うと効果的です。

RAW+◢Lについて

RAW+◢Lを選んだときは、1回の撮影でRAWと◢Lの画像がカードに同時に記録されます。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で保存されます。◢Lは付属ソフトウェアの入っていないパソコンでも見たり、印刷したりすることができます。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

ISO：明るさに応じて感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます（p.78）。

1 〈▲ISO〉ボタンを押す

➡［ISO感度］が表示されます。

2 ISO感度を設定する

- 〈◄►〉または〈dial〉でISO感度を選び、〈SET〉を押します。
- ［AUTO］を選ぶと、ISO感度が自動設定されます（p.78）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.88）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～6400	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- ［カスタム機能（C.Fn）］の［5：高輝度側・階調優先］を［1：する］に設定すると、ISO100は選択できなくなります（p.220）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（縞、輝点など）が目立つことがあります。

［カスタム機能（C.Fn）］の［9：ストロボボタンの機能］を［1：ISO感度］に設定すると、〈ストロボ〉ボタンでISO感度の設定ができるようになります。

ISO感度の自動設定［AUTO］について

ISO 感度の設定が［AUTO］のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
□/⚡/CA/▲/✿/⛷/▣	ISO100～3200自動設定
P/Tv/Av/M*1/A-DEP	ISO100～6400自動設定*2
🎥	ISO100固定
ストロボ撮影時	ISO800固定*3*4*5

*1：バルブ撮影時は、ISO800固定
*2：上限値の設定による
*3：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100
*4：かんたん撮影ゾーン（▣を除く）、および〈P〉〈A-DEP〉モードで、外部ストロボをバウンスしたときはISO800～1600（または上限値まで）の範囲で自動設定
*5：上限値がISO400の場合は、ISO400固定

- 「AUTO」のときのISO感度表示は1段ステップですが、実際はより細かく制御されています。そのため、撮影情報（p.198）でISO感度を確認すると、ISO125や640などと表示されることがあります。
- 〈🎥〉モードのときに、ISO100以外の感度が表示されることがありますが、実際は表に示した感度で撮影されます。

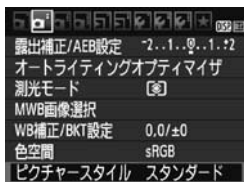
MENU ISO感度［AUTO］時の上限値設定について 応用

ISO感度オート時に自動設定される感度の上限値を、ISO400～6400の間で設定することができます。

［📷⁝］タブの［ISOオート］を選び、〈SET〉を押します。ISO感度を選び〈SET〉を押します。

≈ 被写体に最適な画像特性を選ぶ 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、ピクチャースタイルの選択はできません。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

● ［ ］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

● スタイルを選び〈SET〉を押します。

➡ スタイルが設定され、メニュー画面に戻ります。

各スタイルの画像特性について

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。モードダイヤルが〈 〉のときにも自動設定されます。

111ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

L 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。モードダイヤルが〈 〉のときにも自動設定されます。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

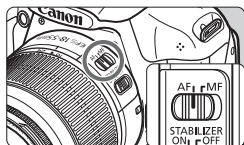
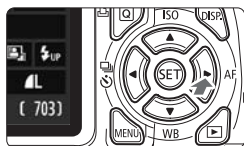
白黒写真になります。

RAW以外の記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、[**モノクロ**] 設定時は、ファインダー内に〈**B/W**〉が表示されます。

ユーザー設定1～3

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.113）。登録されていないときは、[**スタンダード**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

AF：ピント合わせの方法を変える 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAFモードが自動設定されます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 〈► AF〉ボタンを押す

➡ ［AFモード］が表示されます。

3 AFモードを選ぶ

- 〈◄►〉または〈⚙〉でAFモードを選び、〈SET〉を押します。

4 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したモードでピント合わせが行われます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレーム内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光（p.100）のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい被写体』（p.85）を参照してください。
- ［**◘˙ 電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- AF フレーム選択（p.83）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

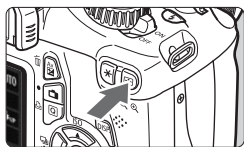
被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合っているときは、電子音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

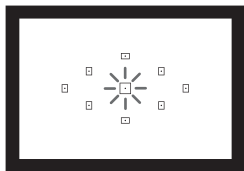
⊡ ピントを合わせる枠を選ぶ 応用

かんたん撮影ゾーンでは、自動で基本的に一番近くにあるものにピントを合わせるため、思ったところにピントが合わないことがあります。

〈**P**〉モードだけでなく、〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉モードでは、ピント合わせを行うAFフレーム（枠）を1つ選び、その枠を合わせたところだけにピントを合わせることができます。

1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

➡ 現在選択されているAFフレームが、液晶モニターとファインダー内に表示されます。

2 AFフレームを選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押してAFフレームを選びます。
- ファインダーをのぞきながらAFフレームを選ぶときは、〈⌇〉を回して赤く光る点を移動させます。
- すべてのAFフレームが点灯しているときは自動選択です。被写体の位置に応じて、自動的にAFフレームが決まります。
- 〈SET〉を押すと、中央のAFフレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- 選んだ AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

撮影のポイント

● **人物をアップで撮影するときは、「ワンショットAF」で目にピントを合わせる**

　写される人の目にピントを合わせてから構図を決めると、生きいきとした表情が引き立った写真になります。

● **ピントが合いにくいときは、中央のAFフレームを選ぶ**

　9点の中で、一番ピントの合いやすいAFフレームです。

● **動いているものに楽にピントを合わせ続けたいときは、「自動選択」とAFモードの「AIサーボAF」**（p.82）**を組み合わせる**

　初めに中央のAFフレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

内蔵ストロボによるAF補助光について

　暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈ストロボ発光禁止〉〈風景〉〈スポーツ〉モードでは、内蔵ストロボによるAF補助光は光りません。
- AFモードがAIサーボAFのときは、AF補助光は投光されません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲の目安は4m以内です。
- 応用撮影ゾーンでは、〈ストロボ〉ボタンを押してストロボを上げておくと（p.88）、必要に応じてAF補助光が光ります。

エクステンダー（別売）を組み合わせたときの開放絞り数値が、F5.6よりも大きい場合は、AF撮影できません（ライブビュー撮影時の［**ライブモード**］、［**顔ライブモード**］を除く）。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

ピントが合いにくい被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

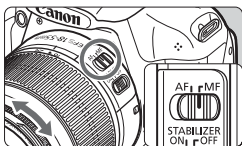
- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.52）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

ライブビュー撮影時の［**ライブモード**］、［**ライブモード**］のAF でピントが合いにくい撮影条件については、132ページを参照してください。

MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

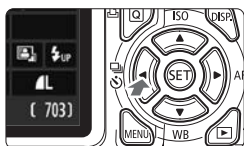
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントが合ったAFフレーム内の点が一瞬赤く光り、電子音が鳴って、合焦マーク〈●〉が点灯します。

連続撮影する 応用

1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。子どもが走ってくる様子や、表情の変化を写し続けたいときに効果的です。

1 〈◄ 連続撮影 セルフタイマー〉ボタンを押す

2 〈連続撮影〉を選ぶ

- 〈◄►〉または〈メイン電子ダイヤル〉で連続撮影〈連続撮影〉を選び、〈SET〉を押します。
- 連続撮影速度は、記録画質（p.74）の設定により変わります。

  JPEG　：**最高約3コマ/秒**
  RAW　：**最高約2コマ/秒**
  RAW＋◢L：**約0.8コマ/秒**（平均値）

3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影が行われます。

撮影のポイント

被写体の動きに応じてAFモード（p.81）**を組み合わせる**

- **動いている被写体**

  「AIサーボAF」と組み合わせると、被写体にピントを合わせ続けながら連続撮影することができます。

- **止まっている被写体**

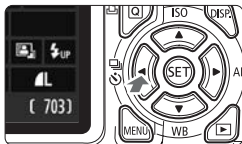
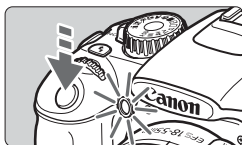
  「ワンショットAF」と組み合わせると、一度合わせたピントの位置を変えずに連続撮影できます。

- ［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：長秒時露光のノイズ低減**］を［**1：自動**］［**2：する**］に設定、または［**4：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**2：強め**］に設定すると（p.219）、記録画質の設定により、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。
- 室内や暗い場所では、連続撮影速度が低下することがあります。

セルフタイマー撮影

1 〈◄ 🔲 セルフタイマー〉ボタンを押す

2 セルフタイマーを選ぶ

● 〈◄►〉または〈ダイヤル〉でセルフタイマーを選び、〈SET〉を押します。

- セルフタイマー：**10秒後に撮影**
- セルフタイマー2：**2秒後に撮影** 応用
- セルフタイマーC：**10秒後、設定した枚数を連続撮影**
  〈▲▼〉を押して、撮影する枚数（2～10）を設定します。

3 撮影する

● ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

➡ セルフタイマーランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。

➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

〈セルフタイマーC〉では、記録画質やストロボ撮影などの撮影条件によって、連続撮影の間隔が長くなることがあります。

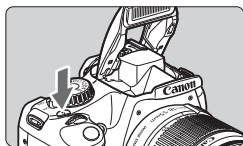
● セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.70）。

● ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.229）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

● 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.52）。

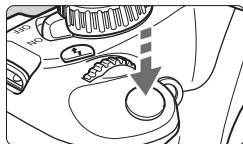
● セルフタイマー撮影を中止するときは、〈◄ 🔲 セルフタイマー〉ボタンを押します。ライブビュー撮影時に中止するときは、電源スイッチを〈OFF〉にします。

⚡ 内蔵ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60～1/200秒）が自動設定されます。

1 〈⚡〉ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈⚡〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「⚡**buSY**」、液晶モニターに［**BUSY⚡**］が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈⚡〉が表示されていることを確認します。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

ストロボ撮影できる距離の目安 ［約・m］

ISO感度（p.77）	EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II	
	広角側	望遠側
100	1～2.6	1～1.6
200	1～3.7	1～2.3
400	1～5.3	1～3.3
800/AUTO*	1～7.4	1～4.6
1600	1～10.5	1～6.6
3200	1～14.9	1～9.3
6400	1～21.0	1～13.1

* 日中シンクロ撮影時は、ISO800より感度が低くなることがあります。

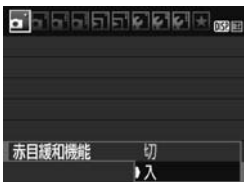
撮影のポイント

● **被写体が遠くにあるときは、ISO感度を上げる**（p.77）
　ISO感度の数値を大きくすると、ストロボ撮影できる距離を延ばすことができます。

● **明るい日中では、ISO感度を下げる**
　ファインダー内の数値が点滅するときは、ISO感度の数値を小さくします。

● **レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れる**
　レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認してください。

MENU 赤目緩和機能について

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。
〈〉〈〉〈〉〈〉以外の撮影モードで機能します。

● ［］タブの［**赤目緩和機能**］を選び、〈SET〉を押します。［**入**］を選び〈SET〉を押します。
● ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

● 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
● シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。
● 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

4

もっとカメラを使いこなす

この章では、第3章の応用編として、さらにカメラの機能を使って思いどおりの写真を撮るための方法を説明しています。

- 章の前半では、モードダイヤルの〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**A-DEP**〉を使った撮影方法を説明しています。
- 3章で説明したすべての機能は、〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用することができます。
- 撮影機能の組み合わせについては、232ページを参照してください。
- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（p.22）限定の機能であることを示しています。

電子ダイヤルガイドについて

1/125

F8.0

-3..2..1..0..1..2..+3

シャッター速度、絞り数値、露出補正を設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉（電子ダイヤル）を回して設定することを示しています。

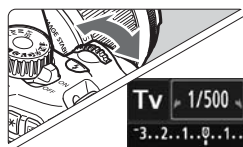
Tv：被写体の動きを表現する

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 『撮影のポイント』を参考にしてシャッター速度を決めます。
- シャッター速度は、〈 〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

シャッター速度の表示
液晶モニターでは、シャッター速度を分数で表示していますが、ファインダー内では、その分母のみ表示しています。なお、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

撮影のポイント

● **動きの速い被写体が、止まっているような写真にするには**

　動きの速さにもよりますが、シャッター速度の数値を1/4000～1/500秒に設定します。

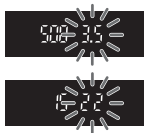
● **子どもや動物が走る様子を、躍動感ある写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/250～1/30秒に設定し、被写体をファインダーで追い続けながらシャッターボタンを押します。望遠レンズを使うときは、手ブレしないようにカメラをしっかり構えてください。

● **川の流れや噴水を、流動感ある写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/30秒以下に設定します。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。

● **絞り数値が点滅しないシャッター速度を設定する**

　シャッターボタンを半押しして、絞り数値が表示されている状態でシャッター速度を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、絞り数値も一緒に変わります。このとき、絞り数値の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるために絞り数値が点滅します。

　写真が暗くなるときは、小さな絞り数値が点滅します。〈〉を左に回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

　写真が明るくなるときは、大きな絞り数値が点滅します。〈〉を右に回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

　自動設定された絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるように、ストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒に制限されます。

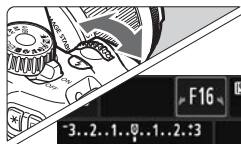
Av: ピントの合う範囲を変える

背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉（絞り優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1 モードダイヤルを〈**Av**〉にする

2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。
- 数値は、〈ダイヤル〉を右に回すと大きくなり（絞る）、左に回すと小さくなります（開ける）。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

絞り数値の表示

数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

撮影のポイント

- **絞り数値を大きくしたときや、暗い場所では手ブレに注意する**

  絞り数値を大きくするほどシャッター速度が遅くなります。また、暗い場所ではシャッター速度が最長30秒になります。ISO感度を上げてカメラをしっかり構えて撮影するか、三脚に固定して撮影してください。

- **ピントの合う範囲は、絞り数値だけでなく、使用するレンズと撮影する距離によっても変わる**

  広角レンズはピントが前後方向に合う範囲が広いので、絞り数値をあまり大きくしなくても手前から遠くまでピントの合った写真が撮影できます。逆に望遠レンズでは、ピントの合う範囲が狭くなります。

  また、ピントの合う範囲は、撮影する距離が近くなるほど狭くなり、撮影する距離が遠くなるほど広くなります。

- **シャッター速度が点滅しない絞り数値を設定する**

  シャッターボタンを半押しして、シャッター速度が表示されている状態で絞り数値を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、シャッター速度も一緒に変わります。このとき、シャッター速度の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるためにシャッター速度が点滅します。

  写真が暗くなるときは、「**30"**」（30秒）が点滅します。〈 〉を左に回して絞り数値を小さくするか、ISO感度を上げます。

  写真が明るくなるときは、「**4000**」（1/4000秒）が点滅します。〈 〉を右に回して絞り数値を大きくするか、ISO感度を下げます。

⚡ 内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。シャッター速度は、その場の明るさに応じて、1/200秒～30秒の範囲で自動設定されます。

暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。

なお、シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**2：Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1：1/200-1/60秒自動**］または［**2：1/200秒固定**］に設定します（p.218）。

MENU ピントの合う範囲を確認する 応用

絞りは撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影しない状態では、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。次の操作を行うと、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を撮影前に確認することができます。

1 絞り込みができるように設定する

- ［**カスタム機能（C.Fn）**］の［**8：SETボタンの機能**］を［**5：絞り込み**］に設定します（p.222）。
- カスタム機能の設定方法については、216 ページを参照してください。

2 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを2回押してメニューを終了します。

3 〈SET〉ボタンを押す

➡ 絞り込みが行われ、ピントの合う範囲が確認できます。

ライブビュー映像を見ながら（p.122）、〈SET〉を押したまま絞り数値を変えると、ピントの合う範囲がよくわかります。

M: 露出を自分で決めて撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にして、自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。
＊〈**M**〉は、Manual （マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av〉ボタンを押しながら〈〉を回して設定します。

標準露出指標

露出レベルマーク

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内に露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

4 露出を決めて撮影する

- 任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±2段を超えるときは、ファインダー内の露出レベル表示の端が〈〉または〈〉の表示になります（液晶モニターの露出レベル表示は、±3段を超えると、〈**-3**〉または〈**+3**〉の位置で〈〉が点滅）。

［**オートライティングオプティマイザ**］（p.107）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。

ϟ 内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒、バルブに制限されます。

BULB: 長時間露光（バルブ）撮影

露光経過時間

バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間だけ露光を行う機能で、打ち上げ花火などの撮影に使用します。

前ページの手順2で〈⚙〉を左に回して行くと、〈**BULB**〉（バルブ撮影）ができます。撮影中は液晶モニターに露光経過時間が表示されます。

- バルブ撮影中は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ［**ϒ: カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：長秒時露光のノイズ低減**］を［**1：自動**］、または［**2：する**］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを低減することができます（p.219）。

バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ（別売／p.229）の使用をおすすめします。

A-DEP：近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

自動的に近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。すべてのAFフレームで被写体を検出し、検出できた範囲全体にピントが合うように、絞り数値が自動設定されます。

＊〈**A-DEP**〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略でピントの合う範囲（被写界深度）を自動設定するという意味です。

---

1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします（4）。
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。
- ピントが合わないと、シャッターは切れません。

3 撮影する

こんなときは

- **ファインダー内の絞り数値が点滅する**

  露出は合っていますが、検出できた範囲全体にピントが合いません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。

- **ファインダー内のシャッター速度が点滅する**

  「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。また、「**4000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

- **遅いシャッター速度が設定された**

  カメラを三脚に固定して撮影してください。

- **ストロボを使いたい**

  使用できますが、〈**P**〉のストロボ撮影と同じ結果になり、検出できた範囲全体にピントが合いません。

明るさの測り方を変える 応用

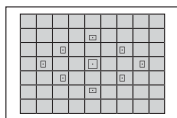
被写体の明るさの測り方（測光モード）を、3種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。

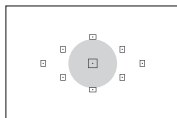
なお、かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます。

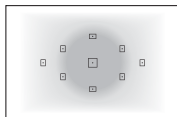
1 ［測光モード］を選ぶ

- ［ ］タブの［測光モード］を選び、〈SET〉を押します。

2 測光モードを設定する

- 項目を選び〈SET〉を押します。

評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

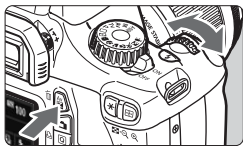
逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。

中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。経験豊富な上級者向けの測光モードです。

は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。/ は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

自分の好みに明るさを調整する 応用

Av⊿ 露出補正を使って撮影する

ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段です。

撮影結果が暗いとき

〈Av⊿〉ボタンを押しながら〈⚙〉を右に回します。（プラス補正）

撮影結果が明るいとき

〈Av⊿〉ボタンを押しながら〈⚙〉を左に回します。（マイナス補正）

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

Tv 1/125 F11 400

➡ 図のように、液晶モニターとファインダー内の露出レベル表示が動きます。

● **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、露出補正を解除します。**

暗めの露出

明るく（プラス）補正

● ファインダー内の露出補正表示は±2段です。±2段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。

● 露出補正は、［**露出補正／AEB設定**］で行うこともできます（p.103）。なお、±2段を超える補正を行うときは、［**露出補正／AEB設定**］で設定することをおすすめします。

ストロボ調光補正を使って撮影する

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

1 〈Q〉ボタンを押す（10）

➡ クイック設定の状態になります（p.40）。

2 ［ ］を選ぶ

● 〈✥〉十字キーを押して［ ＊］を選びます。

➡ 画面下側に［**調光補正**］と表示されます。

3 補正量を設定する

● 撮影結果が暗いときは、〈 〉を右に回します。（プラス補正）
撮影結果が明るいときは、〈 〉を左に回します。（マイナス補正）

➡ シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に〈 〉が表示されます。

● **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、調光補正を解除します。**

［**オートライティングオプティマイザ**］（p.107）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正／調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

［**ストロボ制御**］の［**内蔵ストロボ機能設定**］で調光補正を行うこともできます（p.167）。

MENU 明るさを自動的に変えて撮る 応用

露出補正の応用機能で、1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的に明るさの異なる3枚の写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。

この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

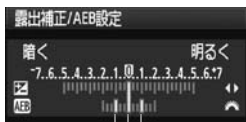
標準露出

暗くなるよう補正
（マイナス補正）

明るくなるよう補正
（プラス補正）

AEBレベル

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

● ［◘˙］タブの［露出補正／AEB 設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 AEBレベルを設定する

● 〈ダイヤル〉を回すとAEBレベルが設定できます。
● 〈◄►〉を押すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影が行われます。
● 〈SET〉を押すと設定されます。
● 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を終了すると、液晶モニターにAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

● ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

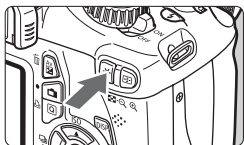
- 手順1、2の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了などで、AEB設定が自動解除されます。

撮影のポイント

- **連続撮影と組み合わせる**
  連続撮影〈□〉(p.86)に設定してシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に連続撮影して自動停止します。
- **ドライブモードが1枚撮影（□）のときは**
  シャッターボタンを3回押して撮影してください。標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- **セルフタイマーと併用できる**
  セルフタイマー〈ꝏ〉〈ꝏ2〉（p.87）を使うと、1回の撮影操作で、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。なお、〈ꝏc〉（p.87）に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されます。

- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。
- ［オートライティングオプティマイザ］（p.107）が［しない］以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

✱ 明るさを固定して撮る 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

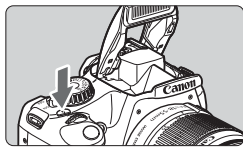
AEロックの効果

測光モード （p.100）	AFフレーム選択（p.83）	
	自動選択	任意選択
◉*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
◎ [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

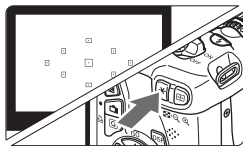
✱ ストロボの発光量を固定して撮る 応用

画面の端に被写体をおいてストロボ撮影を行うと、背景などの影響により、被写体が明るく／暗く写ることがあります。そのようなときは、このFEロック機能を使います。被写体を適切な明るさにするための発光量を決めたあと、構図を変えて（画面の端に被写体をおいて）撮影することができます。EXスピードライト使用時もこの機能を使うことができます。

＊FEは、Flash Exposure：フラッシュエクスポージャーの略です。

1 〈⚡〉ボタンを押す

➡ 内蔵ストロボが上がります。

● シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

3 〈✱〉ボタンを押す（16）

● ファインダーの中央に被写体をおいて、〈✱〉ボタンを押します。

➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈⚡✱〉が点灯します。

● 〈✱〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。

4 撮影する

● 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

➡ ストロボが発光し、撮影されます。

❗ 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作を行ってください。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能をオートライティングオプティマイザといいます。初期状態では、[**標準**]に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.270）で補正します。

1 [オートライティングオプティマイザ]を選ぶ

● [**◘**]タブの[**オートライティングオプティマイザ**]を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

● 項目を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

● 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

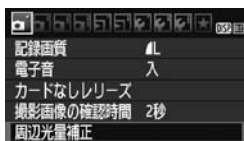
補正なし

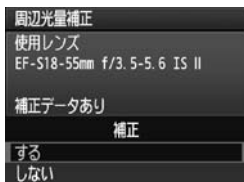
補正あり

● [**カスタム機能（C.Fn）**]の[**5：高輝度側・階調優先**]を[**1：する**]に設定すると、オートライティングオプティマイザが[**しない**]に自動設定され、設定変更ができなくなります。
● 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
● [**しない**]以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正、マニュアル露出で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**しない**]に設定してください。

かんたん撮影ゾーンでは、[**標準**]に自動設定されます。

MENU 画像の四隅の光量不足を補正する ■

　レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を、「周辺光量の低下」といいますが、この現象を自動的に補正することができます。初期状態では、補正［**する**］に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.270）で補正します。

1 ［周辺光量補正］を選ぶ

- ［ ］タブの［**周辺光量補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 表示される画面で、装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。
- 補正［**する**］を選び、〈SET〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

補正しない

補正する

レンズの補正データについて

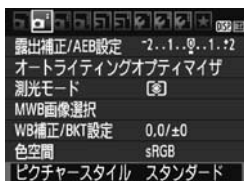
カメラにはあらかじめ、周辺光量補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。手順2で補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量が補正されます。

付属ソフトウェアのEOS Utility（p.270）を使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書（p.272）を参照してください。

- 撮影したJPEG画像の周辺光量を、あとから補正することはできません。
- 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。

- エクステンダー装着時も周辺光量補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

画像特性を自分の好みに調整する 応用

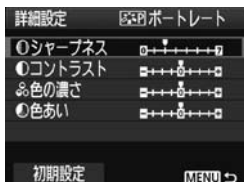
それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。[**モノクロ**］の調整については、112ページを参照してください。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［ ］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び、〈DISP.〉ボタンを押します。

➡ 詳細設定画面になります。

3 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈◄►〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス

被写体の鮮鋭度（シャープネス）の度合いが調整できます。

初期設定よりも被写体の鮮鋭度を弱くしたいときは、0 側に設定します。0に近づけるほど柔らかい（ぼやけた）感じの写真になります。

逆に被写体の鮮鋭度を強くしたいときは、7側に設定します。7に近づけるほど硬い（シャープな）感じの写真になります。

コントラスト

写真の明るい部分と暗い部分の明暗差（コントラスト）や、色のメリハリの強さが調整できます。

初期設定よりもコントラストを弱くしたいときは、マイナス側に設定します。−に近づけるほど全体的におとなしい感じの写真になります。

逆にコントラストを強くしたいときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど全体的にくっきりした感じの写真になります。

色の濃さ

写真全体の色の濃さが調整できます。

初期設定よりも薄い発色にしたいときは、マイナス側に設定します。−に近づけるほど全体的に色の薄い写真になります。

逆に濃い発色にしたいときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど全体的に色の濃い写真になります。

色あい

肌の色あいが調整できます。

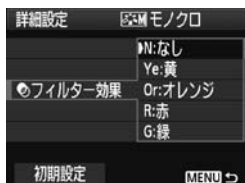
初期設定よりも肌色を赤めにしたいときは、マイナス側に設定します。−に近づけるほど肌の色あいが赤くなります。

逆に肌の色あいを赤色寄りにしたくないときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど肌の色あいが黄色寄りになります。

- 手順 3 で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、79ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した写真にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色の付いたモノクロ写真にすることができます。より印象的な写真を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

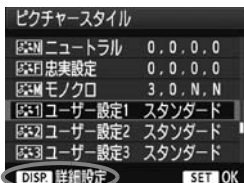
好みの画像特性を登録する 応用

［ポートレート］や［風景］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［ユーザー設定1］から［ユーザー設定3］に登録することができます。

シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属ソフトウェアのEOS Utility（p.270）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

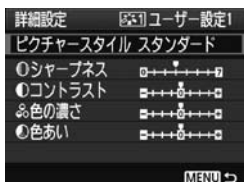
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

● ［］タブの［ピクチャースタイル］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル選択画面になります。

2 ［ユーザー設定］を選ぶ

● ［ユーザー設定＊］を選び〈DISP.〉ボタンを押します。

➡ 詳細設定画面になります。

ピクチャースタイル
ニュートラル 0,0,0,0
忠実設定 0,0,0,0
モノクロ 3,0,N,N
ユーザー設定1 スタンダード
ユーザー設定2 スタンダード
ユーザー設定3 スタンダード
DISP. 詳細設定 SET OK

3 〈SET〉を押す

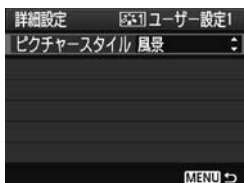
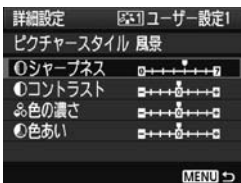
● ［ピクチャースタイル］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

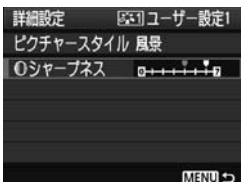
詳細設定 ユーザー設定1
ピクチャースタイル スタンダード
シャープネス
コントラスト
色の濃さ
色あい
MENU

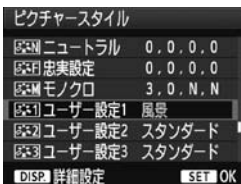
4 基本にするスタイルを選ぶ

● 〈▲▼〉を押して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。

● 付属ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

詳細設定 ユーザー設定1
ピクチャースタイル 風景
MENU

5 項目を選ぶ

● ［シャープネス］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

● 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
詳しくは、『画像特性を自分の好みに調整する』（p.110〜112）を参照してください。

● 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ ［ユーザー設定＊］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。

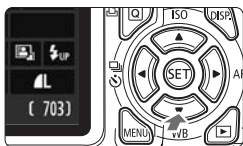
➡ ［ユーザー設定＊］に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

● ［ユーザー設定＊］にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

● ［カメラ設定初期化］（p.164）を行うと、［ユーザー設定＊］に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、付属ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

登録したスタイルで撮影するときは、79ページの手順2で、［ユーザー設定＊］を選択してから撮影します。

WB：明かりにあわせて撮影する 応用

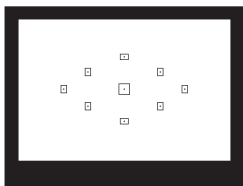
白いものが白く写るように、色あいを補正する機能を、ホワイトバランス（WB）といいます。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、明かりの種類にあわせてホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

1 〈▼ WB〉ボタンを押す

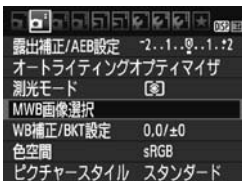
➡ ［ホワイトバランス］が表示されます。

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 〈◄►〉または〈◎〉で項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉〈🏠〉〈☁〉〈✱〉〈▦〉を選んだときに表示される「約****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

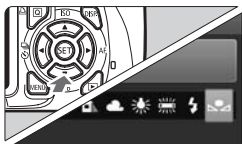
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1 白い被写体を撮影する

- ファインダーの中央に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［］タブの［**MWB画像選択**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面になります。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。
- メニュー画面に戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 マニュアルWBを選ぶ

- 〈▼ WB〉ボタンを押します。
- 〈〉を選び〈(SET)〉を押します。

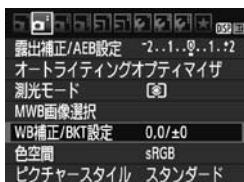
- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.80）は、手順3で選択できません。

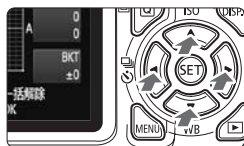
- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属ソフトウェアのEOS Utility（p.270）から登録するカスタムホワイトバランスは、〈〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

WB+/- 明かりに対する色あいを補正する 応用

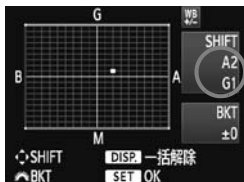
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

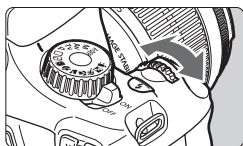
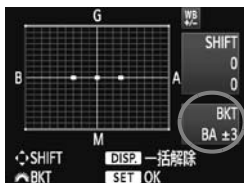
ホワイトバランス補正

1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［▲］タブの［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉十字キーを押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

設定例：A2, G1

- WB補正中は、ファインダー内と液晶モニターに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

WBブラケティング撮影時は、連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。

- ホワイトバランス補正やAEB撮影（p.103）と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 色の再現範囲を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンではsRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

● ［ ］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

● ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

● 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
● ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.272）を参照してください。

5

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

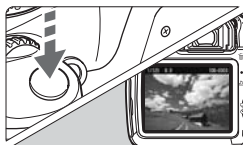
付属ソフトウェアのEOS Utility（p.270）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.272）を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する

1 ライブビュー映像を表示する

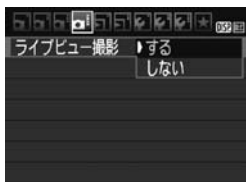
- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモード（p.128～134）でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈 〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約99%（記録画質JPEG ◢L時）です。
- 測光モードはライブビュー撮影用の評価測光に固定されます。
- 応用撮影ゾーンでは、［カスタム機能（C.Fn）］の［8：SETボタンの機能］を［5：絞り込み］に設定し、〈SET〉を押すと、被写界深度を確認することができます。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降が撮影されます。
- 〈A-DEP〉は、〈P〉と同じ撮影結果になります。

ライブビュー撮影ができないときは

［**ライブビュー撮影**］を［**する**］に設定します。

かんたん撮影ゾーンでは［ ］、応用撮影ゾーンでは［ ］に表示されます。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　［約・枚］

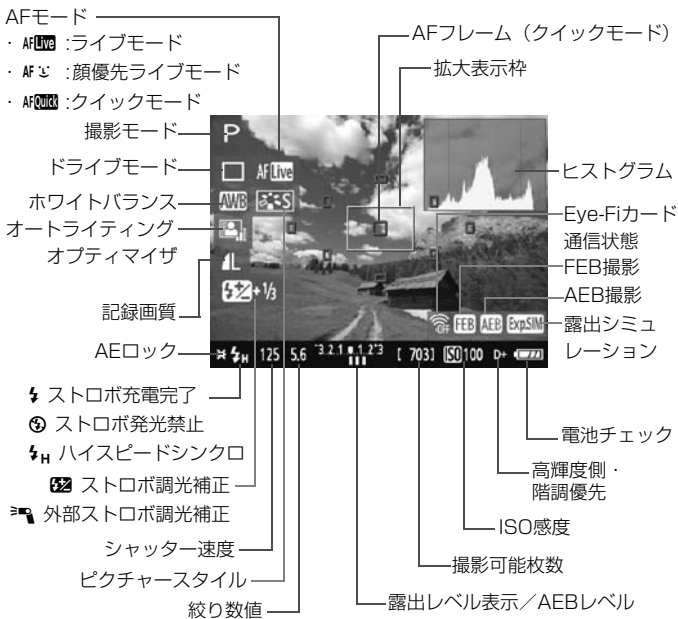
温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	240	220
低温（0℃）	230	210

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E10使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E10でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間、低温（0℃）：合計約1時間40分です。

- ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般に関する注意事項は、136、137ページにまとめて記載しています。**

- ストロボ撮影時はシャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.155）。なお、設定が［**切**］のときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- 別売のHDMIケーブルを使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.191）。

情報表示について

● 〈DISP.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

● 〈ExpSIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
● 〈ExpSIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
● ストロボ使用時、バルブ設定時は、〈ExpSIM〉とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

静止画撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどのすべての設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影する
- 明かりや状況にあわせて撮影する
- 露出
- 被写界深度（C.Fn-8-5設定、〈SET〉ON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先

撮影機能の設定

ライブビュー撮影の機能設定について説明します。

[Q] クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈[Q]〉ボタンを押すと、応用撮影ゾーンでは、AFモード／ドライブモード／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／記録画質／ISO感度の設定を行うことができます。かんたん撮影ゾーンでは、AFモードの他に63ページの表に示した設定を行うことができます。

1 〈[Q]〉ボタンを押す

➡ 画面左側にクイック設定の項目が表示されます。

● AFモードが〈AFQuick〉のときは、AFフレームが表示されます。また、AFフレームを選ぶこともできます。

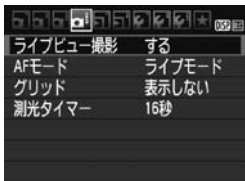
2 機能を選んで設定する

● 〈▲▼〉を押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。

● 〈◄►〉または〈ダイヤル〉で設定します。なお、〈SET〉を押すとその機能の設定画面が表示されます。

応用撮影ゾーンでは、［カスタム機能（C.Fn）］の［9：ストロボボタンの機能］が［1：ISO感度］に設定されているときは、クイック設定でストロボアップができます。ISO感度は〈ストロボ〉ボタンで設定することができます。

メニュー機能の設定

メニューに表示される各項目の内容は、下記のとおりです。

かんたん撮影ゾーンでは［ ］、応用撮影ゾーンでは［ ］に表示されます。

● **ライブビュー撮影**

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AFモード**

［**ライブモード**］（p.128）、［**ライブモード**］（p.129）、［**クイックモード**］（p.133）が選択できます。

● **グリッド**

［**グリッド1**♯］または［**グリッド2**♯♯］で格子線を表示することができます。水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。

● **測光タイマー** 応用

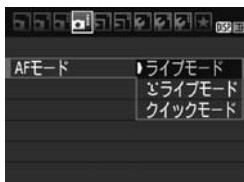
露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。なお、かんたん撮影ゾーンのときは表示されません（16秒固定）。

● **このメニューで設定した内容は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は無効になります。**
● ［**ダストデリートデータ取得**］［**手作業でクリーニング**］［**設定解除**］［**ファームウェア**］を選んだときは、ライブビュー撮影が終了します。

ピント合わせの方法を変える

AFモードを選ぶ

AFモードには、[**ライブモード**]、[**㋡ライブモード**]（顔優先／p.129）、[**クイックモード**]（p.133）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して、手動ピント合わせを行ってください（p.135）。

AFモードを選ぶ

- ［**■**］タブの［**AFモード**］を選びます。
- AFモードを選び、〈SET〉を押します。
- ライブビュー映像表示中に〈Q〉ボタンを押して、クイック設定（p.126）でAFモードを選ぶこともできます。

ライブモード：AFLive

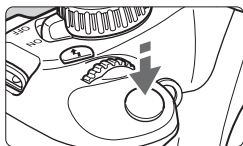
撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックモード」よりもピント合わせに時間がかかります。**また、「クイックモード」よりもピントが合いにくいことがあります。

AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈■〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを動かす

- ピントを合わせたい場所に、〈✥〉十字キーで動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈SET〉を押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。（C.Fn-8設定時は、〈Av☒〉ボタン＋〈SET〉）

3 ピントを合わせる

- ● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。

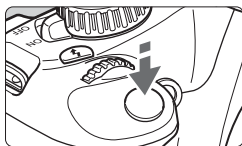
4 撮影する

- ● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.122）。

（顔優先）ライブモード：AF

ライブモードと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

1 ライブビュー映像を表示する

- ● 〈〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ● 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈〉が顔の部分に表示されます。
- ● 複数の顔を検知しているときは〈〉が表示されます。〈◀▶〉でピントを合わせたい顔に〈〉を合わせます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈⁚⁚〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AFフレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。

3 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.122）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉のまま手動ピント合わせができるレンズのときは、フォーカスリングを回して、おおまかにピント合わせを行うと、顔を検知して画面に〈⁚⁚〉が表示されます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔が横や斜めを向いている」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈⁚⁚〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 〈SET〉を押すと、ライブモード（p.128）に切り換わり、〈✣〉十字キーでAFフレームを移動することができます。もう一度〈SET〉を押すと、顔（顔優先）ライブモードに戻ります。（C.Fn-8設定時は、〈Av±〉ボタン+〈SET〉）
- 画面の端のほうで検知された顔はAFできないため、〈⁚⁚〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央のAFフレーム〈□〉でピント合わせが行われます。

ライブモードと🙂（顔優先）ライブモードに関するおことわり

AFの動作について

- ピント合わせには、多少時間がかかります。
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- ライブモードで〈🔍〉ボタンを押すと、AFフレームの部分が拡大表示されますが、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。なお、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- ライブモードの通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- 🙂ライブモードのときは、〈🔍〉ボタンを押しても拡大表示されません。

- ライブモード、🙂（顔優先）ライブモードで、画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、ライブモード、🙂（顔優先）ライブモード時に、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面など、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯などの照明下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

クイックモード：AFQuick

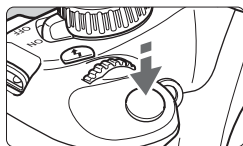
ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAF（p.81）でピント合わせを行います。

ピントを素早く合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈◘〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠がAFフレームで、大きい枠が拡大表示枠です。

2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈Q〉ボタンを押して（⏱10）、クイック設定の状態にします。
- ➡ 画面の左側に設定できる機能が表示されます。
- 〈▲▼〉を押してAFフレームが選択された状態にします。
- 〈⚙〉を回してAFフレームを選びます。

3 ピントを合わせる

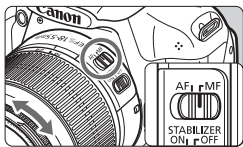
- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせに使用したAFフレームが緑色に変わり、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わり点滅します。

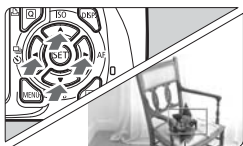
4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.122）。

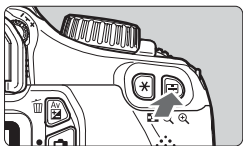
AF中は撮影できません。ライブビュー映像が表示された状態で撮影してください。

MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

● レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。

拡大表示枠

2 拡大表示枠を移動する

● ピントを合わせたい場所に、〈✥〉十字キーで拡大表示枠を移動します。
● 〈SET〉を押すと、画面中央に戻ります。（C.Fn-8 設定時は、〈Av±〉ボタン＋〈SET〉）

3 映像を拡大する

● 〈⊕〉ボタンを押します。
➡ 枠内が拡大表示されます。
● 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→5倍 → 10倍 → 通常表示 ┐

AEロック
拡大表示位置
拡大率

4 手動でピントを合わせる

● 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
● ピント合わせが終わったら、〈⊕〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.122）。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉マークが表示されます。このマークが表示された状態で撮影すると、静止画の画質が低下することがありますので、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い〈🌡〉マークが表示された状態からカメラ内部の温度がさらに上昇すると、赤い〈🌡〉マークが点滅表示されます。このマークは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉マークと〈🌡〉マークが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 太陽など、極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**🔧 液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像に色ノイズが発生することがあります。ただし、この色ノイズは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

ライブビュー撮影全般に関する注意事項

撮影結果について

● ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影画像の画質が低下する恐れがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
● 画質低下を防ぐため、長秒時露光を行うときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。
● 高温・高ISO感度の条件でライブビュー撮影を行うと、ノイズや色ムラが発生することがあります。
● 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（縞、輝点など）が目立つことがあります。
● 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。なお、拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値がオレンジ色で表示されます。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
● ［**オートライティングオプティマイザ**］（p.107）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正を行っても明るく撮影されることがあります。
● TS-E レンズを使用して上下方向のシフトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、適正露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

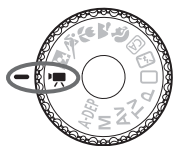
カスタム機能について

● ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.217）。

レンズとストロボについて

● 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。
● 内蔵／外部ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にモデリング発光はできません。

6

動画を撮影する

モードダイヤルを〈'🎥〉に設定すると、ハイビジョン（HD）画質の動画撮影ができます。なお、記録形式はMOV形式です。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。

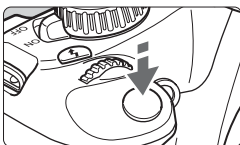
動画撮影時に書き込みが遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。

なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

🎥 動画を撮影する

撮影モードを〈🎥〉にすると、ハイビジョン（HD）画質の動画を自動露出で簡単に撮影することができます。なお、撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします（p.184、191）。

1 モードダイヤルを〈🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 ピントを合わせる

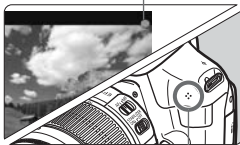
● 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせておきます（p.128～135）。

● シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFモードでピント合わせが行われます。

3 動画を撮影する

● 〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

動画撮影中

マイク

- 動画撮影モードのときは、シャッターボタンを全押ししても静止画撮影はできません。
- 動画撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、150、151ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて136、137ページの『ライブビュー撮影全般に関する注意事項』もお読みください。**

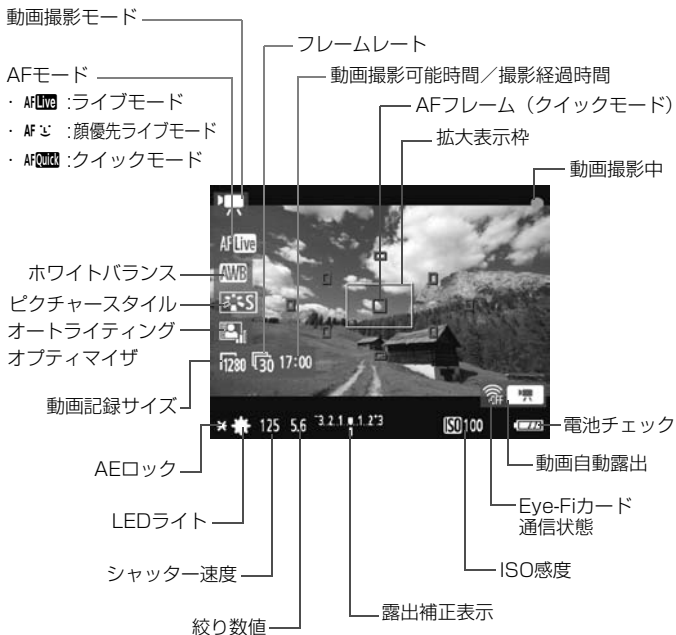
- 1回撮影するごとに、1ファイルが記録されます。
- 映像の視野率は、約99%です。
- ISO感度とシャッター速度、絞り数値は自動設定されます。
- 〈✱〉ボタンを押すとAEロックを行うことができます（p.105）。撮影中にAEロックを解除するときは、〈⊞〉ボタンを押します。
- 〈Av☒〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- シャッターボタン半押しで画面下に表示される露出は参考値です。
- 音声は、カメラに内蔵されたモノラルマイク（p.140）で録音されます。
- 音量（録音レベル）は自動調整されます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E10で使用できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間50分、低温（0℃）：合計約1時間30分です。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）を使う

このカメラは、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。**詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**

情報表示について

● 〈DISP.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 動画撮影モード
- フレームレート
- AFモード
  - ・AFLive：ライブモード
  - ・AF☺：顔優先ライブモード
  - ・AFQuick：クイックモード
- 動画撮影可能時間／撮影経過時間
- AFフレーム（クイックモード）
- 拡大表示枠
- 動画撮影中
- ホワイトバランス
- ピクチャースタイル
- オートライティングオプティマイザ
- 動画記録サイズ
- 電池チェック
- AEロック
- 動画自動露出
- LEDライト
- Eye-Fiカード通信状態
- シャッター速度
- ISO感度
- 露出補正表示
- 絞り数値

● カードが入っていないときは、「動画撮影可能時間」が赤く表示されます。

● 「動画撮影可能時間」は撮影が始まると、「撮影経過時間」に変わります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどのすべての設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先

撮影機能の設定

動画撮影の機能設定について説明します。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、AFモード／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。

1 〈Q〉ボタンを押す（10）

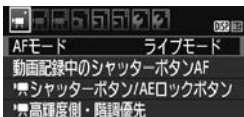
- ➡ 画面左側にクイック設定の項目が表示されます。
- ● AF モードが〈AFQuick〉のときは、AF フレームも表示されます。

2 機能を選んで設定する

- ● 〈▲▼〉を押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。
- ● 〈◄►〉または〈〉で設定します。なお、〈SET〉を押すとその機能の設定画面が表示されます。

MENU メニュー機能の設定

メニューの［'' / '' / ''］タブに表示される各項目の内容は、下記のとおりです。

［''］タブ

● **AFモード**

128～134ページで説明しているAFモードと同じです。［**ライブモード**］、［**ライブモード**］、［**クイックモード**］が選択できます。なお、動いているものにピントを合わせ続けることはできません。

● **動画記録中のシャッターボタンAF**

［**する**］に設定すると、動画撮影中にAFができます。なお、連続的なピント合わせはできません。また、このAFを行うと、一時的にピントが大きくボケたり、露出変化が生じることがあります。また、レンズの作動音も記録されます。

なお、動画撮影時にAFモードが［**クイックモード**］のときは、［**ライブモード**］でAFが行われます。

- **［'' / '' / ''］タブで設定した内容は、〈''〉モード時のみ有効です。〈''〉モード以外の撮影モードには反映されません。**
- 設定した「AFモード」は、ライブビュー撮影にも反映されます。

● **シャッターボタン/AEロックボタン**

シャッターボタン半押しと、AEロックボタンに割り当てられている機能を変更することができます。

・**AF/AEロック：**
通常の設定です。シャッターボタン半押しでAFを行います。〈✱〉ボタンで露出を固定（AEロック）することができます。

・**AEロック/AF：**
シャッターボタン半押しで露出を固定（AEロック）します。AFは〈✱〉ボタンで行います。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

・**AF/AFロック（AEロックなし）：**
シャッターボタン半押しでAFを行います。シャッターボタン半押しでAF動作中に〈✱〉ボタンを押すと、AFを一時停止することができ、〈✱〉ボタンを離すとAF動作を再開します。なお、AEロックはできません。

・**AE/AF（AEロックなし）：**
シャッターボタン半押しで測光します。AFは〈✱〉ボタンで行います。なお、AEロックはできません。

● **高輝度側・階調優先**

［**する**］に設定すると、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。なお、ISO感度の設定範囲はISO200～6400になります。また、オートライティングオプティマイザは［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。

[動画] タブ

● **動画記録サイズ**

　1280×720のハイビジョン（HD）画質で記録します。フレームレート「30」「25」（1秒間に何コマ記録するか）は、使用しているテレビの映像方式に応じて選びます。

* フレームレート単位「fps」は、Frame per secondの略です。

「30」：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

「25」：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

動画の総記録時間と1分あたりのファイルサイズの目安

● ファイルシステムの都合により、動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点で動画撮影が自動的に終了します。
● 自動的に終了しても、〈◘〉ボタンを押すと、すぐに動画撮影を再開できます（新規ファイルとして記録されます）。

動画記録サイズ	総記録時間（約）			ファイルサイズ（約）
	4GBカード	8GBカード	16GBカード	
［1280×720］30 25	17分	34分	1時間8分	222.6MB/分

● カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.150）。
● 1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。

● フルハイビジョン（Full HD）画質、標準（SD）画質の動画撮影はできません。
● 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowser（p.270）を使用すると、動画から静止画を抜き出すことができます。静止画の画質は［1280×720］：約92万画素です。

● **録音**

録音［**する**］を設定すると、内蔵のモノラルマイクで音声が録音されます。音量（録音レベル）は自動調整されます。外部マイクは使用できません。

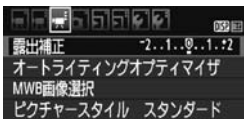
● **測光タイマー**

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● **グリッド**

［**グリッド1** ⋕］または［**グリッド2** ⋕⋕］で格子線を表示することができます。水平、垂直の傾きを確認することができます。

● 音声は、L/Rともに、サンプリング周波数48KHz／16bitで記録されます。
● 設定した「測光タイマー」「グリッド」は、ライブビュー撮影にも反映されます。

[']タブ

● **露出補正**

1/3段ステップ±3段の範囲で、動画の露出補正を行うことができます。

● **オートライティングオプティマイザ**

107ページで説明したオートライティングオプティマイザが設定できます。

なお、[']タブの[**' 高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定すると、オートライティングオプティマイザが[**しない**]に自動設定され、設定変更ができなくなります。

● **MWB画像選択**

115ページで説明したマニュアルホワイトバランス用の画像選択を行います。なお、〈'〉モードでは静止画は撮影できません。〈'〉モード以外の撮影モードで静止画を撮影してから、MWB画像選択を行ってください。

● **ピクチャースタイル**

79ページで説明したピクチャースタイルが設定できます。

カメラ内部の温度上昇にともなう、赤い〈〉表示について

- カメラ内部の温度が上昇すると、赤い〈〉マークが点滅表示されることがあります。このマークは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈〉マークが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

動画撮影全般に関する注意事項

記録と画質

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉の位置にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。
- カードの残り容量がわずかで、動画撮影ができないときは、動画記録サイズと動画撮影可能時間（p.142）が赤く表示されます。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードに書き込みできていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。

動画撮影全般に関する注意事項

再生とテレビ接続

- 動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.191）して動画撮影を行うと、撮影中、テレビに表示される映像のサイズが小さくなります。ただし、動画はハイビジョン（HD）画質で正常に記録されます。
- カメラとテレビを接続して動画撮影を行うと、撮影中、テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

7

知っていると便利な機能

普段使う上で便利な機能

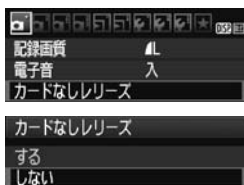
MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときやセルフタイマー撮影時に、電子音が鳴らないようにすることができます。

［📷］タブの［**電子音**］を選び、〈SET〉を押します。［**切**］を選び〈SET〉を押します。

MENU カードの入れ忘れを防止する

カードが入っていないときに、撮影ができないようにすることができます。

［📷］タブの［**カードなしレリーズ**］を選び、〈SET〉を押します。［**しない**］を選び〈SET〉を押します。

カードを入れないでシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**Card**」が表示されてシャッターが切れません。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。［**切**］に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。［**ホールド**］に設定すると、［**オートパワーオフ**］の時間まで画像が表示されます。

なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。

［📷］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

MENU 電源が切れるまでの時間を設定する

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が切れるまでの時間を変更することができます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しするか、〈MENU〉〈▶〉〈⎙〉ボタンなどを押すと電源が入ります。

［切］に設定したときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP.〉ボタンを押して液晶モニターの表示を消すことをおすすめします。

なお、［切］の設定でもカメラを30分間放置すると、液晶モニターが消灯します。液晶モニターを点灯するときは、〈DISP.〉ボタンを押してください。

［🔧］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

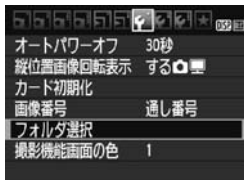
［🔧］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。調整画面で〈◀▶〉を押して明るさを調整し、〈SET〉を押します。

露出を確認するときは、目盛を4の位置にして、なるべく周りの光の影響を受けないようにしてください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 [フォルダ選択] を選ぶ

- [ ] タブの [**フォルダ選択**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [フォルダ作成] を選ぶ

- [**フォルダ作成**] を選び〈SET〉を押します。

3 フォルダを作成する

- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

● フォルダ選択画面が表示された状態で、フォルダを選び〈SET〉を押します。

➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。

● 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

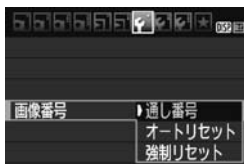
フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.159）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁のフォルダ番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

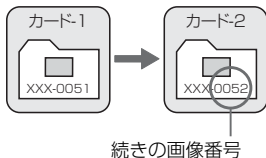
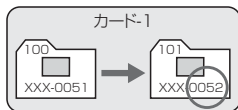
画像番号は、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

［🔧］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

● **［通し番号］：カードの交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき**

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

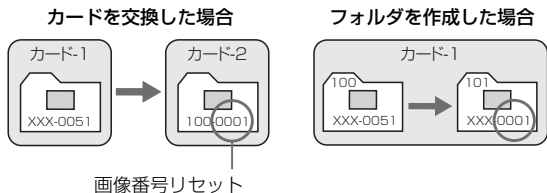
ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

● **[オートリセット]：カードの交換やフォルダ作成で、画像番号を 0001 にしたいとき**

　カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

　ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001 から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

● **[強制リセット]：任意に画像番号を 0001 にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき**

　この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

　前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

　操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_ 」、動画は「MVI_ 」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 著作権情報の設定 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に付加されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［Ⅳ］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 文字の入力画面が表示されます。
- ［**著作権情報の表示**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報が確認できます。
- ［**著作権情報の消去**］を選ぶと、現在設定されている著作権情報を消去できます。

3 文字を入力する

- 次ページの『文字の入力方法』を参照し、著作権情報を入力します。
- 半角英数字／記号で最大63文字入力することができます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が完了したら、〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

文字の入力方法

● **入力エリアの切り換え**

〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

● **カーソルの移動**

〈◀▶〉を押すとカーソルが移動します。

● **文字の入力**

下側のエリアで〈✥〉十字キーまたは〈◎〉で文字を選び、〈SET〉を押して文字を入力します。

● **文字の削除**

〈🗑〉ボタンを押すと1文字消去されます。

● **入力の終了**

〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

● **入力のキャンセル**

〈DISP.〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

付属ソフトウェアのEOS Utility（p.270）から著作権情報を設定・確認することもできます。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

［¥˙］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈(SET)〉を押します。

- **［する 📷 🖥］**：カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき
- **［する 🖥］**　：パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき
- **［しない］**　：自動回転させたくないとき

? こんなときは

- **撮影直後に表示される画像が回転表示されない**

  〈▶〉ボタンを押して、画像を再生したときに回転表示が行われます。

- **［する 📷 🖥］にして再生しても回転表示されない**

  ［**しない**］の設定で撮影した画像は回転表示されません。また、カメラを上や下に向けて撮影すると、回転表示が正しく行われないことがあります。その場合は、179ページの『回転させる』の操作で画像を回転させることができます。

- **［する 🖥］で撮影した画像をカメラで回転表示させたい**

  ［**する 📷 🖥**］に設定して再生すると、回転表示が行われます。

- **パソコンの画面で回転表示されない**

  回転表示に対応していないソフトウェアです。付属のソフトウェアを使用してください。

DISP. カメラの設定内容を確認する

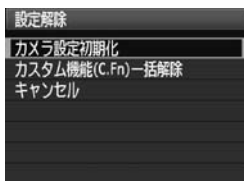
メニュー画面表示中に〈DISP.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている主な機能の内容を確認することができます。

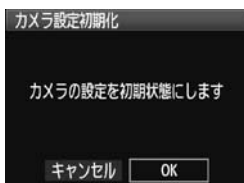
- メニュー画面を表示した状態で、〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- もう一度〈DISP.〉ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。

1 ［設定解除］を選ぶ

- ［¥:］タブの［設定解除］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

- ［カメラ設定初期化］を選び〈SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ ［カメラ設定初期化］を行うと、カメラの設定が次ページのようになります。

? こんなときは

- **すべての設定を初期状態に戻したい**

  上記操作を行ったあと、［¥: 設定解除］で［カスタム機能（C.Fn）一括解除］を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます（p.216）。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
ドライブモード	□（1枚撮影）
測光モード	◎（評価測光）
ISO感度	AUTO（オート）
ISOオート	上限3200
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	そのまま

カメラ設定関係

オートパワーオフ	30秒
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ヒストグラム	輝度
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
液晶の消灯/点灯	半押し連動
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
機能ガイド	表示する
著作権情報	そのまま
HDMI機器制御	切
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま

ライブビュー撮影関係

ライブビュー撮影	する
AFモード	ライブモード
グリッド	表示しない
測光タイマー	16秒

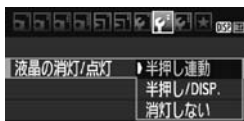
画像記録関係

記録画質	L
ピクチャースタイル	スタンダード
オートライティング オプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／ 登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
画像番号	通し番号
ダストデリートデータ	消去

動画撮影関係

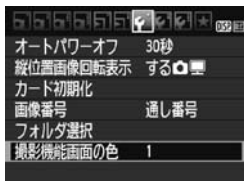
AFモード	ライブモード
動画記録中の シャッターボタンAF	しない
シャッターボタン/ AEロックボタン	AF/AEロック
高輝度側・ 階調優先	しない
動画記録サイズ	そのまま
録音	する
測光タイマー	16秒
グリッド	表示しない
露出補正	解除
オートライティング オプティマイザ	標準
MWB画像選択	解除
ピクチャースタイル	スタンダード

MENU 液晶モニターの消灯/点灯の設定

撮影機能の設定状態（p.46）の表示が、シャッターボタンの半押しに連動して、消えたり点いたりしないようにすることができます。

［🔧］タブの［**液晶の消灯/点灯**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- **［半押し連動］**　：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- **［半押し/DISP.］**：半押しすると表示が消え、指を離しても表示されません。〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- **［消灯しない］**　：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈DISP.〉ボタンを押します。

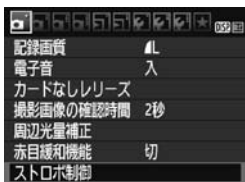
MENU 撮影機能の設定状態の画面の色を変える

撮影機能の設定状態の画面の背景色を変えることができます。

［🔧］タブの［**撮影機能画面の色**］を選び、〈SET〉を押します。表示される画面で色を選び、〈SET〉を押します。

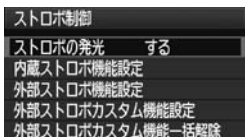
メニューを終了すると、選んだ色をベースにした撮影機能の設定状態の画面が表示されます。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

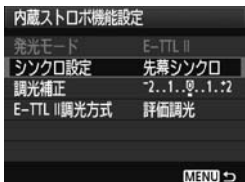
内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面から行うことができます。なお、外部ストロボに関するメニューは、**外部ストロボ機能設定に対応したEXスピードライト装着時**のみ有効です。

設定操作の方法は、カメラのメニュー機能と同じです。

[ストロボ制御] を選ぶ

- [ ] タブの [**ストロボ制御**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

[ストロボの発光] について

- 通常は、[**する**] を選びます。
- **[しない] を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定]

[**内蔵ストロボ機能設定**] と [**外部ストロボ機能設定**] では、次のページに示す機能を設定することができます。なお、[**外部ストロボ機能設定**] で表示される機能は、使用するストロボによって異なります。

- [**内蔵ストロボ機能設定**] または [**外部ストロボ機能設定**] を選びます。
- ➡ 機能が表示されます。明るく表示されている機能が選択・設定できます。

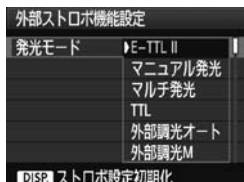
[**ストロボの発光**] を [**しない**] に設定しても、暗い場所などAFでピントが合いにくいときは、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります（AF補助光／p.84）。

[内蔵ストロボ機能設定] と [外部ストロボ機能設定] で設定できる機能

機能	[内蔵ストロボ機能設定]	[外部ストロボ機能設定]	参照頁
発光モード	E-TTL II 固定	○	168
シンクロ設定	○		169
FEB*	—	○	—
調光補正	○		102
E-TTL II調光方式	○		169
ズーム*	—	○	—
ワイヤレス設定*	—	○	—

* [FEB] (フラッシュエクスポージャーブラケティング)、[ズーム]、[ワイヤレス設定] については、それぞれの機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● **発光モード**

外部ストロボ使用時は、撮影目的に応じて発光モードを選ぶことができます。

● [E-TTL II] は、ストロボの自動撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。

● [マニュアル発光] は、ストロボの発光量を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。

● そのほかの発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、撮影終了直前にストロボが発光します。低速シャッターと組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときに露出を決定するプリ発光を行い、撮影終了直前に本発光が行われ、合計2回ストロボが発光します。なお、シャッター速度が1/30秒以上のときは、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

外部ストロボ使用時は、［**ハイスピード**］も選択できます。詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● 調光補正

102ページの『 ストロボ調光補正を使って撮影する』を参照してください。

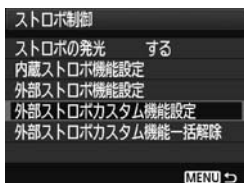
● E-TTL II調光方式

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。［**平均調光**］は上級者向けの設定です。外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

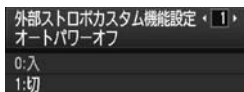
● ストロボ設定の初期化

［**外部ストロボ機能設定**］の画面で〈DISP.〉ボタンを押すと、ストロボ設定の初期化画面が表示されます。**［OK］を選ぶと外部ストロボと内蔵ストロボの設定が初期化されます。**

外部ストロボのカスタム機能を設定する

［外部ストロボカスタム機能設定］で表示される内容は、使用するストロボによって異なります。

1 カスタム機能を表示する

● ［外部ストロボカスタム機能設定］を選び、〈SET〉を押します。

外部ストロボカスタム機能設定 1
オートパワーオフ
0:入
1:切

2 カスタム機能を設定する

● 〈◀▶〉を押して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（p.216）。

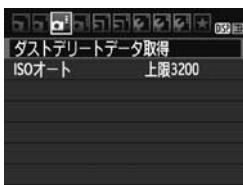
● カスタム機能をすべて解除するときは、手順1で［外部ストロボカスタム機能一括解除］を選びます。

MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

カメラの内部に入り込んだゴミが、撮像素子に付着して、画像に写り込むことがあります。そのときに備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.270）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

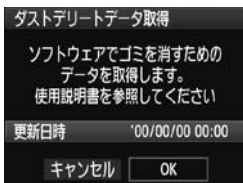
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［◘⁝］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

ダストデリートデータ取得

準備ができたらシャッターボタンを
全押ししてください

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈SET〉を押すと、説明画面が表示されます。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。

- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  [OK] を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.270）による自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM／p.272）を参照してください。

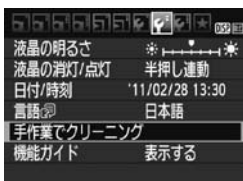
画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

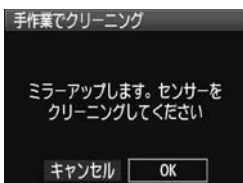
未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子にゴミやほこりが付いて、画像に写り込んだときは、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

1 ［手作業でクリーニング］を選ぶ

- ［🔧］タブの［**手作業でクリーニング**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ［OK］を選ぶ

- ［**OK**］を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 少し間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。

3 撮像素子を清掃する

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- 電源には、ACアダプターキット ACK-E10（別売）の使用をおすすめします。
- 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・カード/電池室ふたを開ける
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因となります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

8

画像の再生

この章では、第2章の『かんたん撮影と画像確認』で説明した再生方法の応用的な使い方や、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 インデックス表示にする

- 〈⊞·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈⊞·Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。
- 〈⊕〉ボタンを押すと、9枚→4枚→1枚表示になります。

➡

➡

3 画像を選ぶ

- 〈✥〉十字キーで青色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈⚙〉を回すと、1画面先または前の画像が表示されます。
- 〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。

1 ［での画像送り］を選ぶ

- ［］タブの［**での画像送り**］を選び、〈SET〉を押します。

2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈〉十字キーを押して、ジャンプ方法を選び、〈SET〉を押します。

  - ：**1枚ずつ画像表示**
  - ：**10枚飛びに画像表示**
  - ：**100枚飛びに画像表示**
  - ：**撮影日を切り換えて画像を表示**
  - ：**フォルダを切り換えて画像を表示**
  - ：**動画だけを表示**
  - ：**静止画だけを表示**
  - ：**指定したレーティングの画像を表示**（p.180）

  〈〉を回して選びます。

ジャンプ方法

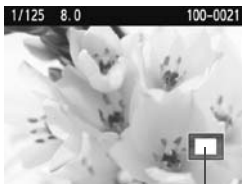
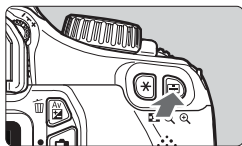
再生位置

3 画像送りをする

- 〈〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈〉を回します。

- ［**撮影日**］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- ［**フォルダ**］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［**動画**］と［**静止画**］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- ［**レーティング**］で対象となる画像がないときは、〈〉での画像送りは行われません。

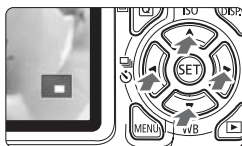
🔍 ／ 🔍 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

拡大表示位置

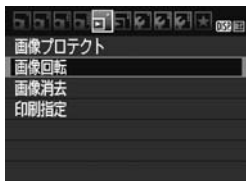
1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈🔍〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈▦·🔍〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。

2 表示位置を移動する

- 〈✥〉十字キーを操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 〈⚙〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後に表示された画像を、拡大表示することはできません。
- 動画は拡大表示できません。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させます。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶˙］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して回転する画像を選びます。
- インデックス表示（p.176）にして選ぶこともできます。

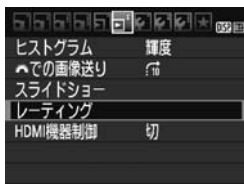
3 画像を回転する

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- ［**縦位置画像回転表示**］を［**する**📷🖥］（p.162）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、［**縦位置画像回転表示**］を［**する**📷🖥］に設定します。
- 動画は回転できません。

MENU お気に入りのレベルを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]）を付加することができます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

1 [レーティング] を選ぶ

- [▶] タブの [レーティング] を選び、〈SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◄►〉を押してお気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 〈▦·Q〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈⊕〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

3 お気に入り情報を付ける

- 〈▲▼〉を押して、お気に入りマークを選びます。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、レーティングの設定が終了し、メニューに戻ります。

[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]マークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、[###]と表示されます。

お気に入り情報の利用方法

- ［**での画像送り**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- ［**スライドショー**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.270）で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを選択することができます。
- Windows VistaとWindows 7では、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、「評価」という項目でお気に入りマークを確認することができます。

Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［О┓ 画像プロテクト／回 画像回転／★ レーティング／ 10 ダイヤル での画像送り］の設定を行うことができます。なお、動画のときは、回 画像回転はできません。

1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面左側にクイック設定の項目が表示されます。

2 項目を選んで設定する

- 〈▲▼〉を押して、項目を選びます。
- ➡ 選んだ項目の名称と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈◄►〉を押して設定します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定の項目が消えて設定が終了します。

画像回転を行うときは、［**縦位置画像回転表示**］を［**する**］に設定してください。［**縦位置画像回転表示**］が［**する**］、［**しない**］に設定されているときは、［回 **画像回転**］で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定の項目が表示されます。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- このカメラ以外で撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する （p.191）

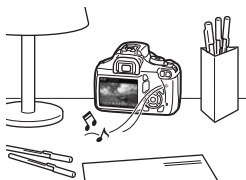
テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。また、HDMI端子を備えたテレビかどうか確認してください。

カメラとテレビをHDMIケーブルで接続すると、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。なお、このカメラで撮影したハイビジョン（HD）画質の動画を、ハイビジョン対応のテレビで再生すると、高画質な映像を楽しむことができます。

- カメラに映像/音声出力端子はありません。そのため、AVケーブルでテレビと（アナログ）接続することはできません。
- 動画が入ったカードは、MOV形式の動画ファイルの再生に対応した機器以外では、再生できません。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルで、カメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

 別売のHDMIケーブルHTC-100の使用をおすすめします。

カメラの液晶モニターで再生する

(p.186〜190)

カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する

（→ZoomBrowser EX/ImageBrowser使用説明書PDF参照／p.272）

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowser（p.270）で再生・編集することができます。

また、動画から1フレームを取り出して、静止画として保存することもできます。

- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ZoomBrowser EX/ImageBrowserの使用説明書（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈 SET〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

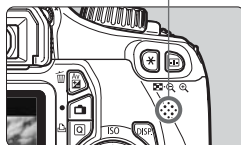
➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。

スピーカー

4 動画を再生する

- [▶](再生)を選び、〈SET〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

- 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈ダイヤル〉を回すと、再生中でも内蔵スピーカーの音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

項目	再生内容
終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈◀▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
編集	編集画面を表示します（p.188）。
	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、SS”：秒）
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.186）の音量を調整することができます。

- フル充電のバッテリーパック LP-E10で連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約4時間です。
- 1枚表示のときに〈DISP.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.199）。
- カメラをテレビに接続して（p.184、191）動画を再生するときは、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈〉を回しても音量は変わりません）。
- 他のEOSカメラで撮影した、フルハイビジョン（Full HD）画質の動画、およびハイビジョン（HD）画質でフレームレートが60/50fpsの動画は、このカメラでは再生できません。ハイビジョン（HD）画質でフレームレートが30/25fpsの動画、および標準（SD）画質の動画のみ、このカメラで再生できます。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後を約1秒単位で削除することができます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

2 削除する範囲を指定する

- ［✂☐］（前部を削除）か、［☐✂］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◀▶〉を押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部の青色で表示された範囲が残ります。

3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、青色で表示された範囲が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、［⮌］を選んで〈SET〉を押します。

4 保存する

- ［保存アイコン］を選んで〈SET〉を押します。
➡ 保存画面が表示されます。
- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈SET〉を押します。

- 約1秒単位（［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が、指定した位置と異なる場合があります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowser（p.270）を使うと、さまざまな動画編集を行うことができます。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 [スライドショー] を選ぶ

- [▶:] タブの[**スライドショー**]を選び、〈SET〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して図に示した項目を選び、〈SET〉を押します。

[全画像/動画/静止画]

- 〈▲▼〉を押して［**全画像/動画/静止画**］のいずれかを選び、〈SET〉を押します。

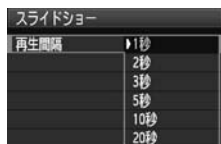
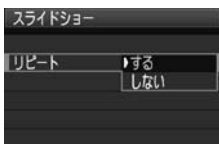
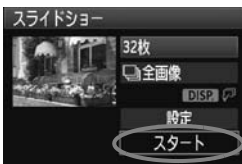
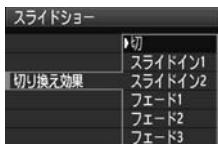
[日付/フォルダ/レーティング]

- 〈▲▼〉を押して［**日付/フォルダ/レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈DISP.〉が明るく表示された状態で、〈DISP.〉ボタンを押します。
- 〈▲▼〉を押して内容を選び、〈SET〉を押します。

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

3 ［設定］の内容を設定する

- 〈▲▼〉を押して［設定］を選び、〈SET〉を押します。
- 静止画の［再生間隔］と［リピート］（繰り返し再生）、［切り換え効果］（画像を切り換える際の演出効果）を設定します。
- 設定が終わったら〈MENU〉ボタンを押します。

［再生間隔］

［リピート］

［切り換え効果］

4 スライドショーを開始する

- 〈▲▼〉を押して［スタート］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［画像読み込み中...］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

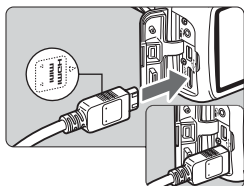
5 スライドショーを終了する

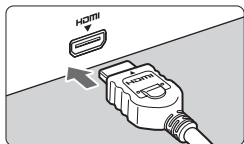
- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは、〈SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［Ⅱ］が表示されます。再度〈SET〉を押すと、再開します。
- 自動再生中に〈DISP.〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えることができます（p.70）。
- 動画再生中に〈ダイヤル〉を回すと、音量を調節することができます。
- 一時停止中に〈◀▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、191～193ページを参照してください。

ハイビジョンテレビで見る

テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。また、HDMI端子を備えたテレビかどうか確認してください。

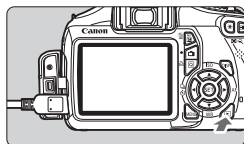
カメラとテレビをHDMIケーブルで接続すると、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。なお、このカメラで撮影したハイビジョン（HD）画質の動画を、ハイビジョン対応のテレビで再生すると、高画質な映像を楽しむことができます。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉マークがカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、186 ページを参照してください。

- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。

1 ［HDMI機器制御］を［入］にする

- ［▶:］タブの［**HDMI機器制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［入］を選び〈SET〉を押します。

2 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に自動的に切り換わります。

3 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで画像が再生できるようになります。

4 画像を選ぶ

● リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

5 リモコンの決定ボタンを押す

➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。

● ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。

● ［**戻る**］を選択し、決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

静止画再生メニュー

動画再生メニュー

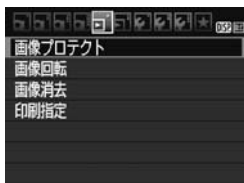
⮌ ：戻る
▦ ：9枚インデックス表示
▶ ：動画再生
◈ ：スライドショー
DISP. ：撮影情報の切り換え
◙ ：画像回転

● テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。

● HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。その場合は、HDMIケーブルを取り外して、［▶: **HDMI機器制御**］を［**切**］にして、カメラ側で操作してください。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト

1 [画像プロテクト] を選ぶ

- [▶˙] タブの [**画像プロテクト**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

2 [画像を選択] を選ぶ

- [**画像を選択**] を選び〈SET〉を押します。

プロテクト表示

3 プロテクトをかける

- 〈◄►〉を押してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了し、メニューに戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ単位、またはカード単位で、画像にプロテクトをかけることもできます。

［画像プロテクト］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像にプロテクトがかかります。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.44）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.197）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

𝄘 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.194）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようにプロテクトをかけてください。RAW＋◢Lで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

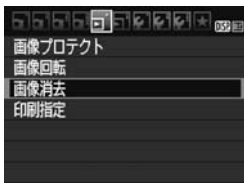
2 〈消去〉ボタンを押す

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

● ［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

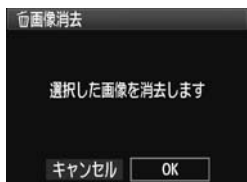
消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶］タブの［**画像消去**］を選び、〈SET〉を押します。

2 [選択して消去] を選ぶ

- [**選択して消去**] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 〈・〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◄►〉を押して消去したい画像を選び、〈▲▼〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

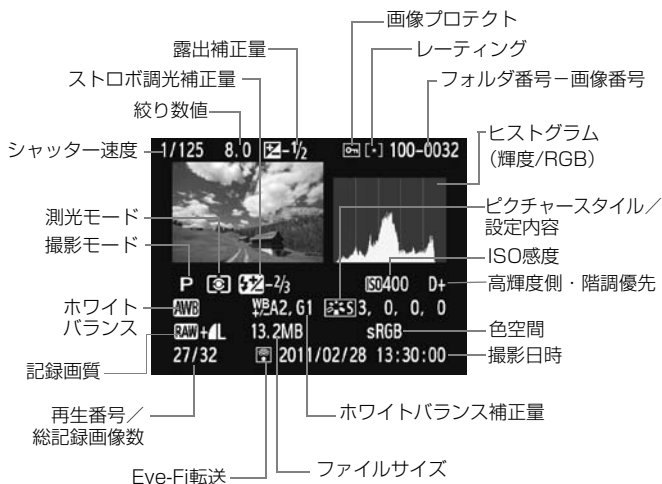
- 〈〉ボタンを押します。
- [OK] を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することもできます。[**画像消去**] で [**フォルダ内・全画像**] または [**カード内・全画像**] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.44）。

DISP. 撮影情報の内容

応用撮影ゾーンで撮影した画像の例

* RAW＋◢Lの設定で撮影した画像は、RAWのファイルサイズが表示されます。
* ストロボ調光補正なしでストロボ撮影した画像は〈⚡〉、ストロボ調光補正を行った画像は〈⚡±〉と表示されます。

かんたん撮影ゾーンで撮影した画像の例

* かんたん撮影ゾーンで撮影した画像は、撮影モードによって表示される内容が異なります。
*〈CA〉モードで撮影した画像は、［**背景のぼかし具合**］が表示されます。

動画撮影モードで撮影した動画の例

* シャッター速度、絞り数値、ISO感度は表示されません。

● ハイライト警告表示について

撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、［▶ **ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

9

画像の印刷

● **印刷**（p.202）

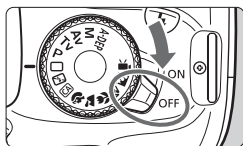
カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷することができます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

● **画像を印刷指定する／DPOF**（p.211）

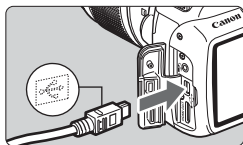
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

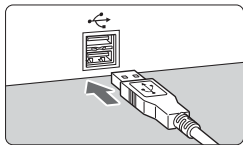
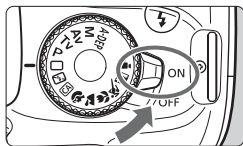
印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈•⟵〉マークが、カメラの前面に向くようにして、〈•⟵〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.210）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約4時間30分印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E10（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

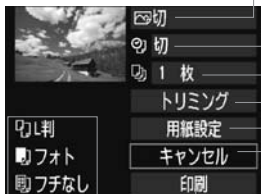
プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◄►〉を押して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

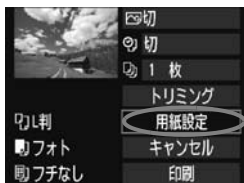
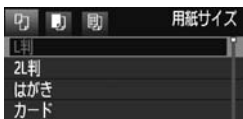
➡ 印刷設定画面になります。

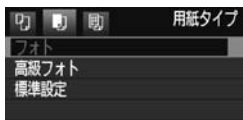
印刷設定画面

設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面になります。

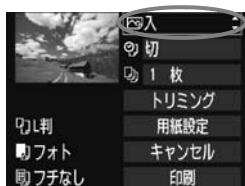
用紙タイプの設定

- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。
- ➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

- 印刷レイアウトを選び〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

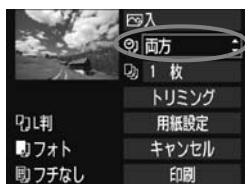
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*2を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します*1。 ・［**20面配置**］では、撮影情報*2を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

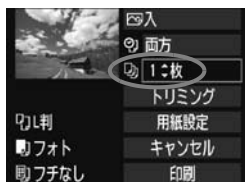
*1：『画像を印刷指定する／DPOF』（p.211）で印刷指定したあと、『印刷指定画像のダイレクトプリント』（p.214）で印刷することをおすすめします。

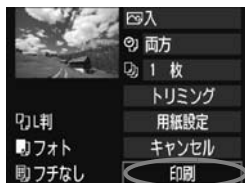
*2：Exif情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 図の項目を選び〈SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈SET〉を押します。
- 〈DISP.〉の横に〈目〉が明るく表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます（p.208）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
切	自動補正は行われません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われ印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

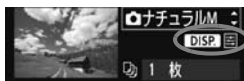
* **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。208ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⊙〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⧉〉を選び〈SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈SET〉を押します。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、〈凸〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、「かんたん印刷」のときは、1枚ずつ印刷されます（印刷枚数は指定できません）。また、トリミングの設定（p.209）は反映されません。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.209）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.164）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

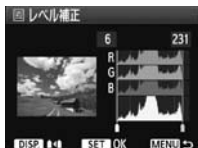
印刷効果の調整について

206ページの手順4で項目を選び、〈DISP.〉の横に〈印刷効果〉が明るく表示されているときに、〈DISP.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈DISP.〉ボタンを押すと、〈▮〉の位置が切り換わります。〈◄►〉を押すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整することができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈✥〉十字キーで行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

傾き補正

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

● 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈⊕〉〈⊟·⊖〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈✥〉十字キーを操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈DISP.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈◎〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、画面上の〈◇〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

● 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

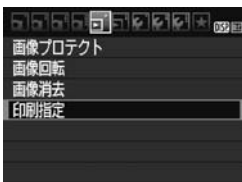
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 [印刷指定] を選ぶ

- ［▶̇］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

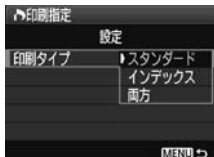
2 [設定] を選ぶ

- ［**設定**］を選び〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］

［**日付**］

［**画像番号**］

印刷タイプ			
印刷タイプ	スタンダード		用紙1枚に1画像を印刷します。
	インデックス		用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	両方		スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入 / 切		[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
画像番号	入 / 切		[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [**画像選択**] [**■指定**] [**全画像**] で、印刷する画像を指定します。

- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW 画像と動画は印刷指定できません。RAW 画像はダイレクトプリント（p.202）で印刷することができます。
- [**インデックス**] に設定したときは、[**日付**] と [**画像番号**] を同時に [**入**] にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈 〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈 〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード][両方]

〈▲▼〉を押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。

[インデックス]

〈▲▼〉を押して、〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● 指定

[**フォルダ内の全画像を指定**]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**フォルダ内の全画像指定を解除**]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

[**カード内の全画像を指定**]を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**カード内の全画像指定を解除**]を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

⌐印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 202ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する (p.204)

- 印刷効果 (p.206) は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  - 印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、210ページを参照してください。

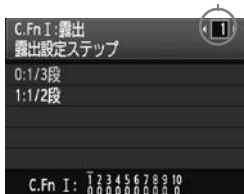
10

カメラの機能を自分好みに変更する

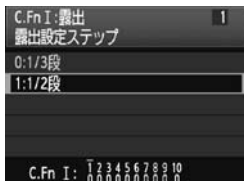
撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能は、応用撮影ゾーンで設定・機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 [カスタム機能（C.Fn）]を選ぶ

- [ꟸ:]タブの[カスタム機能（C.Fn）]を選び、〈(SET)〉を押します。

カスタム機能番号

2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄►〉を押して設定する機能番号を選び、〈(SET)〉を押します。

3 設定を変更する

- 〈▲▼〉を押して設定内容（番号）を選び、〈(SET)〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順1の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

[ꟸ: 設定解除]で[カスタム機能（C.Fn）一括解除]を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます（p.164）。

カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

			LV撮影
1	露出設定ステップ	p.218	○
2	Avモード時のストロボ同調速度		○

C.Fn II：画像

3	長秒時露光のノイズ低減	p.219	○
4	高感度撮影時のノイズ低減		○
5	高輝度側・階調優先	p.220	○

C.Fn III：AF・ドライブ

6	AF補助光の投光	p.220	○（AFQuick時*）

* LEDライト付きのEXスピードライト（別売）使用時は、AFLive、AF顔モードでもAF補助用のライトが点灯します。

C.Fn IV：操作・その他

7	シャッターボタン/AEロックボタン	p.221	○
8	SETボタンの機能	p.222	○（3を除く）
9	ストロボボタンの機能		○
10	電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯	p.223	

□ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時には機能しません（設定が無効になります）。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

カスタム機能は、機能ごとに4つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：画像」、「C.Fn III：AF・ドライブ」、「C.Fn IV：操作・その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn-1　露出設定ステップ

0： 1/3段

1： 1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

1設定時は、ファインダー内と液晶モニターの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn-2　Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行ったときの、ストロボ同調速度を設定することができます。

0： 自動

明るさに応じてシャッター速度が1/200秒から30秒の範囲で自動設定されます。外部ストロボ使用時は、ハイスピードシンクロを行うこともできます。

1： 1/200-1/60秒自動

暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により適正露出になりますが、被写体の背景は暗くなることがあります。

2： 1/200秒固定

シャッター速度が1/200秒に固定されるため、1よりも被写体ブレや手ブレを防止することができます。ただし、暗い場所では1よりも被写体の背景が暗くなります。

1, 2設定時は、外部ストロボ使用時に、ハイスピードシンクロはできません。

C.Fn II：画像

C.Fn-3　長秒時露光のノイズ低減

0：しない

1：自動

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2：する

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- 1，2設定時は、シャッター速度が1秒より速いときでも、連続撮影速度が遅くなります（JPEG画質時）。また、連続撮影可能枚数も少なくなります（JPEG画質時）。長秒時露光撮影を行うときだけ、設定することをおすすめします。
- 1，2設定時は、撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600以上の高感度で撮影すると、0，1設定時よりも2設定時の方が画像のザラつきが多くなる場合があります。
- 1，2設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

C.Fn-4　高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

0：標準

1：弱め

2：強め

3：しない

- 2設定時は、連続撮影速度が遅くなります（JPEG、RAW+◢L画質時）。また、連続撮影可能枚数も少なくなります（JPEG、RAW画質時）。
- RAWとRAW+◢L画像をカメラで再生、またはダイレクトプリントすると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.270）で行ってください。

C.Fn-5　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

- 1設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.107）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 1設定時は、0設定時よりもノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～6400になります。
また、液晶モニターとファインダー内には、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn-6　AF補助光の投光

内蔵ストロボによるAF補助光、およびEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じて、内蔵ストロボ、または外部ストロボからAF補助光が投光されます。

1：しない

AF補助光は投光されません。

2： 外部ストロボの補助光のみ投光

外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

3： 赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、赤外光方式のAF補助光だけを投光します。内蔵ストロボと同じ、ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光したくないときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、0, 2, 3に設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn-7　シャッターボタン/AEロックボタン

0： AF/AEロック

1： AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

2： AF/AFロック（AEロックなし）

AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないように、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3： AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。AIサーボAF時は、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-8　SETボタンの機能

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：通常（無効）

1：記録画質選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面が表示されます。記録画質を選び、〈SET〉を押します。

2：調光補正

〈SET〉を押すと、調光補正の設定画面が表示されます。補正量を設定し〈SET〉を押します。

3：液晶モニターの入/切

〈DISP.〉ボタンと同じになります。

4：メニュー表示

〈SET〉を押すと、メニュー画面が表示されます。

5：絞り込み

設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、ピントの合う範囲（被写界深度）を、ファインダー、またはライブビュー映像で確認することができます。

C.Fn-9　ストロボボタンの機能

0：ストロボアップ

1：ISO感度

ISO 感度の設定画面が表示されます。〈◄►〉または〈ダイヤル〉で感度を設定します。ファインダーを見ながら設定することもできます。

C.Fn-10　電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯

0：点灯

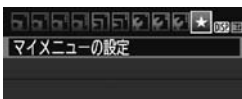
電源を入れると撮影機能の設定状態（p.46）が表示されます。

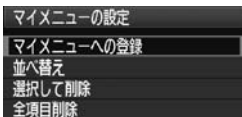
1：電源〈OFF〉時の状態を保持

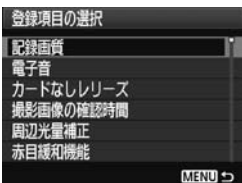
〈DISP.〉ボタンを押して、液晶モニターが消えている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに撮影機能の設定状態が表示されません。電池の消耗を少なくしたいときに有効です。なお、メニュー操作や再生操作は、通常どおり行うことができます。

〈DISP.〉ボタンを押して、撮影機能の設定状態が表示されている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに撮影機能の設定状態が表示されます。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録することができます。

1 [マイメニューの設定] を選ぶ

- [★] タブの [**マイメニューの設定**] を選び、〈SET〉を押します。

2 [マイメニューへの登録] を選ぶ

- [**マイメニューへの登録**] を選び〈SET〉を押します。

3 登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順 2 の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**並べ替え**] を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆] が表示された状態で〈▲▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **選択して削除／全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**] を選ぶと1項目ずつ削除、[**全項目削除**] を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

  [**する**] に設定すると、メニュー画面を表示したときに [★] タブから表示されます。

11

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXスピードライト（別売）をこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

- ストロボ機能設定（p.167）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**外部ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］［**E-TTL II調光方式**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）
- 外部ストロボ側で調光補正を設定すると、カメラの液晶モニターに表示されるストロボ調光補正のマークが、からに変わります。
- 外部ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしている場合は、常時フル発光します。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

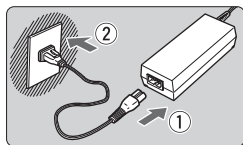
同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で同調します。1/200秒よりも遅いシャッター速度で撮影してください。

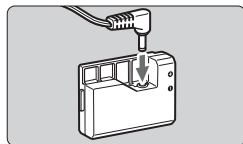
なお、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

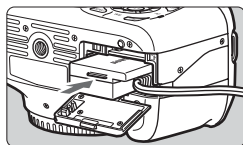
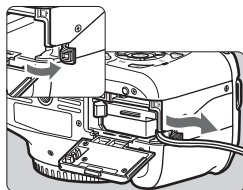
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

家庭用電源を使う

ACアダプターキット ACK-E10（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

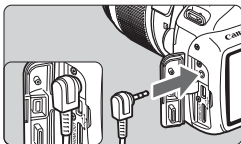
2 DCカプラーを接続する

- DC カプラーにコードのプラグを差し込みます。

3 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

4 DCコードを通す

- DC コード通し部のカバーを開き、図のようにコードを通します。
- ふたを閉じます。

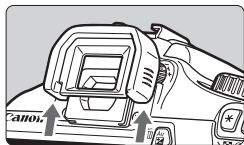
カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

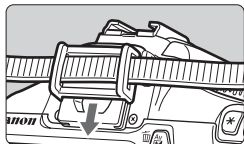
リモートスイッチを使う

コード長約60cmのリモートスイッチ RS-60E3（別売）に対応しています。カメラのリモコン端子につないで、シャッターボタンと同じように半押し／全押しを行うことができます。

 リモートコントローラー RC-6、RC-1、RC-5（別売）は使用できません。

アイピースカバーを併用する

セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.25）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。

1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップをファインダー接眼部の溝に沿って取り付けます。

Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら、画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

---

1 Eye-Fiカードを入れる（p.28）

2 ［Eye-Fi設定］を選ぶ

- ［¥˙］タブの［**Eye-Fi設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 通信機能を有効にする

- 〈(SET)〉を押し、［**Eye-Fi通信**］の［**する**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**しない**］を選ぶと、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク（OFF））。

4 通信情報一覧を表示する

- ［**通信情報一覧**］を選び〈(SET)〉を押します。

5 ［接続先のSSID:］を確認する

- ［接続先のSSID:］に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈MENU〉ボタンを 3 回押してメニューを終了します。

6 撮影する

通信状態マーク

- ➡ 画像が転送され、〈ᯤ〉がグレー（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。
- 転送した画像は、撮影情報表示（p.198）の画面で ▣ が表示されます。

ᯤ（グレー）**未接続**：転送先に接続していません。
ᯤ（点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
ᯤ（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
ᯤ（↑）**転送中**　　：画像を転送しています。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- 「◖!」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- ［Eye-Fi通信］を［しない］に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

●：自動設定　○：選択可能　▭：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン					動画*1
		全自動	ストロボ発光禁止	CA	ポートレート	風景	クローズアップ	スポーツ	夜景ポートレート	P	Tv	Av	M	A-DEP	
全記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ISO感度	自動設定/ISOオート	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	●
	手動設定									○	○	○	○	○	
	オートの上限値設定									○	○	○	○	○	
ピクチャースタイル	自動選択	S	S	S	P	L	S	S	S						
	任意設定									○	○	○	○	○	○
雰囲気を選んで撮影する				○	○	○	○	○	○						
明かりや状況にあわせて撮影する					○	○	○	○							
ホワイトバランス	オート	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○
	プリセット									○	○	○	○	○	○
	マニュアル									○	○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング									○	○	○	○	○	
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○
周辺光量補正		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減										○	○	○	○	○	
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	
高輝度側・階調優先										○	○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	
	Adobe RGB									○	○	○	○	○	
ピント合わせ	ワンショットAF				●	●	●		●	○	○	○	○	○	AF Live / AF 顔 / AF Quick *2
	AIサーボAF							●		○	○	○	○	○	
	AIフォーカスAF	●	●	●						○	○	○	○	○	
	AFフレーム選択	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	AF Quick
	AF補助光	●		●	●		●	*3	●	○	○	○	○	○	
	手動(MF)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン					［動画］*1
		［全自動］	［ストロボ発光禁止］	［CA］	［ポートレート］	［風景］	［クローズアップ］	［スポーツ］	［夜景ポートレート］	P	Tv	Av	M	A-DEP	
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	
	測光モード選択									○	○	○	○	○	
露出	プログラムシフト									○					
	露出補正									○	○	○		○	○
	AEB									○	○	○	○	○	
	AEロック									○	○	○		○	○
	被写界深度確認									○（C.Fn-8-5）					
ドライブ	1枚撮影	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	
	連続撮影			○	○			○		○	○	○	○	○	
	［セルフタイマー］（10秒）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	［セルフタイマー2］（2秒）									○	○	○	○	○	
	［セルフタイマーC］（連続撮影）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
内蔵ストロボ	自動発光	●		○	●		●		●						
	手動発光			○						○	○	○	○	○	
	発光禁止		●	○		●		●		○	○	○	○	○	●
	赤目緩和	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	
	FEロック									○	○	○	○	○	
	ストロボ調光補正									○	○	○	○	○	
外部ストロボ	機能設定									○	○	○	○	○	
	カスタム機能設定									○	○	○	○	○	
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
機能ガイド		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*1：〈［動画］〉動画撮影モードでは静止画の撮影はできません。

*2：動画撮影中は〈［AFLive］〉に切り換わります。

*3：ライブビュー撮影時に、AFモードが〈［AFQuick］〉のときは、必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

MENU メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

撮影1（赤）

参照頁

記録画質	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3／RAW＋L／RAW	74
電子音	入／切	154
カードなしレリーズ	する／しない	154
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	154
周辺光量補正	する／しない	108
赤目緩和機能	切／入	89
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	167

撮影2（赤）

露出補正／AEB設定	1/3, 1/2段ステップ、±5段（AEB±2段）	103
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	107
測光モード	評価測光／部分測光／中央部重点平均測光	100
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	115
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 BKT設定：ホワイトバランスブラケティング	117 118
色空間	sRGB／Adobe RGB	119
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／L風景／Nニュートラル／F忠実設定／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	79 110 113

- ［撮影］撮影2、［撮影］撮影3、［機能設定］機能設定3、［★］マイメニューの画面（タブ）は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- ［撮影］撮影4のタブは、かんたん撮影ゾーンでは、［撮影］撮影2のタブとして表示されます。
- ［　　］の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

撮影3（赤）

参照頁

ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理を行うためのデータを取得	171
ISOオート	上限400／上限800／上限1600／上限3200／上限6400	78

撮影4（赤）

ライブビュー撮影	する／しない	123
AFモード	ライブモード／顔ライブモード／クイックモード	128
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯	127
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	127

再生1（青）

画像プロテクト	画像を選択／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除	194
画像回転	画像の縦横回転	179
画像消去	選択して消去／フォルダ内・全画像／カード内・全画像	196
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	211

再生2（青）

ヒストグラム	輝度／RGB	200
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	177
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート／切り換え効果	189
レーティング	[OFF] ／[*]／[**]／[***]／[****]／[*****]	180
HDMI機器制御	切／入	192

機能設定1（黄）

		参照頁
オートパワーオフ	30秒／1分／2分／4分／8分／15分／切	155
縦位置画像回転表示	する／する／しない	162
カード初期化	記録内容を初期化して消去	44
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	158
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	156
撮影機能画面の色	撮影機能の設定状態の画面の色を選択	166
Eye-Fi設定*	Eye-Fi通信：しない／する 通信情報一覧	230

* Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	7段階明るさ調整	155
液晶の消灯/点灯	半押し連動／半押し/DISP.／消灯しない	166
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	33
言語	表示言語を選択	34
手作業でクリーニング	手作業による撮像素子の清掃	173
機能ガイド	表示する／表示しない	47

機能設定3（黄）

カスタム機能（C.Fn）	カメラの機能を細かく設定する	216
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／ 著作権者名入力／著作権情報の消去	160
設定解除	カメラ設定初期化／カスタム機能（C.Fn）一括解除	164
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	−

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	224

動画撮影モード時

動画1（赤）

		参照頁
AFモード	ライブモード／ライブモード／クイックモード	145
動画記録中のシャッターボタンAF	しない／する	145
シャッターボタン/AEロックボタン	AF/AEロック／AEロック/AF／AF/AFロック（AEロックなし）／AE/AF（AEロックなし）	146
高輝度側・階調優先	しない／する	146

動画2（赤）

動画記録サイズ	1280×720 30／1280×720 25	147
録音	する／しない	148
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	148
グリッド	表示しない／グリッド1 #／グリッド2 #	148

動画3（赤）

露出補正	1/3段ステップ、±3段	149
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	149
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	149
ピクチャースタイル	Sスタンダード／Pポートレート／L風景／Nニュートラル／F忠実設定／Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	149

撮影1（赤）

参照頁

電子音	入／切	154
周辺光量補正	する／しない	108

再生1（青）

画像プロテクト	画像を選択／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除	194
画像回転	画像の縦横回転	179
画像消去	選択して消去／フォルダ内・全画像／カード内・全画像	196
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	211

再生2（青）

ヒストグラム	輝度／RGB	200
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	177
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート／切り換え効果	189
レーティング	[OFF] ／[★]／[★★]／[★★★]／[★★★★]／[★★★★★]	180
HDMI機器制御	切／入	192

機能設定1（黄）

		参照頁
オートパワーオフ	30秒／1分／2分／4分／8分／15分／切	155
縦位置画像回転表示	する／する／しない	162
カード初期化	記録内容を初期化して消去	44
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	158
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	156
Eye-Fi設定*	Eye-Fi通信：しない／する 通信情報一覧	230

* Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

機能設定2（黄）

液晶の明るさ	7段階明るさ調整	155
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	33
言語	表示言語を選択	34
機能ガイド	表示する／表示しない	47

- 表示されるタブや項目は、ファインダー撮影/ライブビュー撮影時と、動画撮影モード時で異なります。
- ［］動画1、［］動画2、［］動画3の画面（タブ）は、動画撮影モードのときだけ表示されます。

システム図

ST-E2
270EX II
320EX
430EX II
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
アイピースエクステンダー
EP-EX15II
アイカップEf
ラバーフレームEf
視度補正レンズE
ワイドストラップ
EW-200D
アングルファインダーC
ハンドストラップE2
バッテリーパック
LP-E10
バッテリーチャージャー
LC-E10
ACアダプターキット
ACK-E10
DCカプラー
DR-E10
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS700
セミハードケース
EH19-L

リモートスイッチ
RS-60E3
EFレンズ
EF-Sレンズ
HDMI ケーブル
HTC-100（約2.9m）
テレビ／ビデオ
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
PictBridge対応プリンター
インターフェースケーブル
（約1.3m）
パソコン
インターフェースケーブル IFC-200U/500U
（約1.9m/約4.7m）
USBポート
Windows 7
Windows Vista
Windows XP
Mac OS X
SD/SDHC/SDXC
メモリーカード
カードリーダー
カードスロット

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E10を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- 充電器に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。そのときは、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し/取り付けを行い、しばらく経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- カード/電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.28）。
- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.28）。
- 電池を充電してください（p.26）。
- 〈DISP.〉ボタンを押してください（p.46）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.26）。
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。
- ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと（p.121、139）、撮影可能枚数が少なくなります。

- シャッターボタン半押しの状態を長く続けたり、AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- レンズの手ブレ補正機能を使うと、撮影可能枚数が少なくなります。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[**ｙ オートパワーオフ**]を[**切**]にしてください(p.155)。
- [**ｙ オートパワーオフ**] を [**切**] に設定していても、カメラを30分放置すると、液晶モニターが消灯して電源が切れたように見えます。〈DISP.〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影関連

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.28)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.28、196)。
- ワンショットAF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.39、85)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な設定にしてください（p.28)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、30 ページ、または250ページを参照してください。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.158）。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.35）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.38、39）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.92）、ISO感度を上げる（p.77）、ストロボを使用する（p.88）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

画像に横縞が写る／露出や色あいがおかしい

- 蛍光灯やLED電球などの人工光源下で、ファインダー撮影、ライブビュー撮影を行うと、横縞（ノイズ）や露出ムラが発生することがあります。また、露出（明るさ）や色あいが適切にならないことがあります。なお、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

連続撮影速度が遅くなる／連続撮影可能枚数が少なくなる

- ［**カスタム機能（C.Fn）**］の［3：**長秒時露光のノイズ低減**］を［0：**しない**］に設定、および［4：**高感度撮影時のノイズ低減**］を［2：**強め**］以外に設定すると、通常の連続撮影速度で撮影できます。また、連続撮影可能枚数も通常の枚数に戻ります。
- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、74ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

● ［ꟹ: カスタム機能（C.Fn）］の［5：高輝度側・階調優先］が［1：する］に設定されているときは、ISO100に設定できません。［0：しない］に設定すると、ISO100が設定できるようになります（p.220）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

● ［ꟹ: カスタム機能（C.Fn）］の［5：高輝度側・階調優先］が［1：する］に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。［0：しない］に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（p.107）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

● 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［ꟹ: カスタム機能（C.Fn）］の［2：Avモード時のストロボ同調速度］を、1または2に設定してください（p.218）。

内蔵ストロボが勝手に上がる

● □、🅟、🌷、🅢 モードでは、必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

内蔵ストロボが発光しない

● 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボ機能設定で調光補正ができない

● 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、［外部ストロボ機能設定］の画面で［調光補正］（p.169）は設定できません。また、カメラ側で調光補正量を設定したあと、外部ストロボ側で調光補正量を設定したときは、外部ストロボの設定が優先されます。外部ストロボ側の設定を解除すると、［調光補正］の設定ができるようになります。

〈Av〉モード時にハイスピードシンクロができない

- ［¥: カスタム機能（C.Fn）］の［2：Avモード時のストロボ同調速度］を［0：自動］に設定してください（p.218）。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.123）。

ライブビュー撮影と動画撮影時に、〈温度〉が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈温度〉マークが表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈温度〉マークが表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.136、150）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 1回の撮影あたりのファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED電球などの人工光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。

再生関連

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

画像の一部が黒く点滅する

- ハイライト警告表示です（p.200）。露出オーバーで白飛びした部分が点滅します。

画像を消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません（p.194）。

動画が再生できない

- 付属ソフトウェアのZoomBrowser EX/ImageBrowser（p.270）などを使用して、パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。

動画が一瞬止まって見えることがある

- 動画撮影中に大きな露出変化が生じた場合、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

カメラをテレビに接続できない

- テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。HDMIケーブルHTC-100の使用をおすすめします（p.191）。
- テレビにHDMI入力端子があるか確認してください。HDMI入力端子を備えていない、映像/音声入力端子のみを備えたテレビには接続できません。

テレビに画像が表示されない

- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.191）。
- 別売のHDMIケーブル HTC-100の使用をおすすめします（p.191）。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、付属ソフトウェアのEOS Utility（p.270）を使って、画像を取り込んでください。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンと動画撮影モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.42）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_MG_」）になる

● 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.119）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

● 動画ファイルです（p.159）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

● 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.33）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

● 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.207）。

[♯♯♯] が表示される

● カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［♯♯♯］と表示されます（p.181）。

[Eye-Fi設定] が表示されない

● ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.230）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

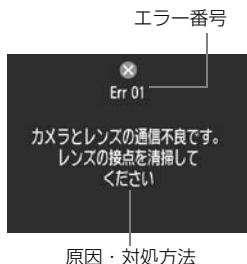
● 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.206）。

エラー表示

エラー番号

Err 01

カメラとレンズの通信不良です。
レンズの接点を清掃して
ください

原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.15、18）
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.28、44）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.28、196、44）
05	内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源スイッチを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.31）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80	エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.31、28）

＊上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式....................................ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード
撮像画面サイズ.................約22.0×14.7mm
使用レンズ.........................キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント.................キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式....................................CMOSセンサー
カメラ部有効画素.............約1220万画素
アスペクト比.....................3：2
ダスト除去機能.................手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット.............DCF2.0
画像タイプ.........................JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEGラージ同時記録可能
記録画素数.........................L（ラージ）　：約1220万（4272×2848）画素
M（ミドル）　：約630万（3088×2056）画素
S1（スモール1）：約340万（2256×1504）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）　：約1220万（4272×2848）画素
フォルダ作成／選択..........可能

■画像処理

ピクチャースタイル..........スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
表現セレクト機能..............雰囲気を選んで撮影する、明かりや状況にあわせて撮影する
ホワイトバランス..............オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応
ノイズ低減.........................長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正......オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先..........可能
レンズ周辺光量補正..........可能

■ファインダー

方式……ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率……上下/左右とも約95%（アイポイント約21mm時）
倍率……約0.8倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント……約21mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲……約－2.5～＋0.5m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン……固定式、プレシジョンマット
ミラー……クイックリターン式
被写界深度確認……カスタム機能の設定により可能

■オートフォーカス

方式……TTL二次結像位相差検出方式
測距点……9点
輝度範囲……EV0～18（常温・ISO100）
フォーカスモード……ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AF補助光……内蔵ストロボ間欠発光方式

■露出制御

測光方式……63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約10%）
・中央部重点平均測光
測光範囲……EV1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式……プログラムAE（全自動、ストロボ発光禁止、クリエイティブ全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、プログラム)、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、自動深度優先AE
ISO感度（推奨露光指数）……かんたん撮影ゾーン：ISO100～3200自動設定
応用撮影ゾーン：ISO100～6400任意設定（1段ステップ)、ISO100～6400自動設定、ISOオート時の上限値設定可能
露出補正……手動 ：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB ：1/3、1/2段ステップ±2段（手動露出補正との併用可能）
AEロック……自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式.......................................電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度..................1/4000～1/60秒（全自動モード）、
ストロボ同調最高シャッター速度＝1/200秒
1/4000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）

■ストロボ

内蔵ストロボ ....リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー約9.2（ISO100・m）／約13（ISO200・m）
焦点距離約17mm相当の画角に対応
充電時間約2秒
外部ストロボ ....EXシリーズスピードライト(カメラ側操作で機能設定可能)
調光方式............................E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正..............1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック...........................可能
シンクロ端子 ....なし

■ドライブ関係

ドライブモード..................1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー 10秒/2秒/10秒後連続撮影
連続撮影速度 ....JPEG：最高約3.0コマ/秒
RAW：最高約2.0コマ/秒
RAW+JPEGラージ/ファイン：約0.8コマ/秒（平均値）
* RAW+JPEGラージ/ファインでは、3コマ目以降は、連続撮影速度が低下
* 当社試験基準4GBカード使用時
連続撮影可能枚数..............JPEGラージ/ファイン：約830枚
RAW：約5枚
RAW+JPEGラージ/ファイン：約1枚
* RAW+JPEGラージ/ファインでは、「busy」が表示されるが、約0.8コマ/秒（平均値）の速度で連続撮影可能
* 当社試験基準4GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定

■ライブビュー撮影機能

フォーカス........................ライブモード、顔優先ライブモード（コントラスト検出方式）、クイックモード（位相差検出方式）
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
測光方式............................撮像素子による評価測光
測光範囲............................EV 0〜20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
グリッド表示....................2種類

■動画撮影機能

映像圧縮方式....................MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声記録方式....................リニアPCM
記録形式............................MOV形式
記録サイズ........................1280×720（HD）
フレームレート................30p（29.97fps）、25p（25.00fps）
ファイルサイズ................約222.6MB/分
フォーカス........................ライブビュー撮影機能のフォーカスに準ずる
測光方式............................撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* フォーカスモードにより自動設定
測光範囲............................EV 0〜20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御............................動画撮影用プログラムAE
ISO感度............................ISO100〜6400自動設定
露出補正............................1/3段ステップ、±3段
AEロック..........................可能
録音....................................内蔵モノラルマイク
グリッド表示....................2種類
動画編集............................シーン前後カット可能（1秒単位）

■液晶モニター

形式....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数.......2.7型/約23万ドット
明るさ調整........................手動（7段階）
メニュー表示言語............日本語、英語
機能ガイド........................表示可能

■再生機能

画像表示形式 .... 簡易情報、簡易情報＋画質/番号、撮影情報、ヒストグラム、4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率................. 約1.5～10倍
画像表示検索 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
ハイライト警告................. ハイライト部分点滅表示
動画再生 .... 可能（液晶モニター、HDMI出力）
スピーカー内蔵

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター................. PictBridge対応プリンター
印刷対応画像 .... JPEG画像、RAW画像
印刷指定 .... DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能 10種
マイメニュー登録............. 可能
著作権情報 .... 設定と付加可能

■インターフェース

デジタル端子 .... パソコン通信、ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB相当）
HDMIミニ出力端子 .... タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
リモコン端子 リモートスイッチRS-60E3用
Eye-Fiカード.................... 対応

■電源

使用電池 .... バッテリーパック LP-E10、1個
* ACアダプターキットACK-E10使用により、AC駆動可能
撮影可能枚数の目安.......... ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による） 常温（23℃）約700枚／低温（0℃）約650枚
ライブビュー撮影：
常温（23℃）約220枚／低温（0℃）約210枚
動画撮影可能時間............. 常温（23℃）合計約1時間50分
低温（0℃）合計約1時間30分
（フル充電のバッテリーパック LP-E10使用時）

■大きさ・質量

大きさ .... 約129.9（幅）×99.7（高さ）×77.9（奥行）mm
質量 .... 約495g（CIPAガイドラインによる）/約450g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度.....................0℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下

■バッテリーパック LP-E10

形式....................................リチウムイオン電池
公称電圧............................DC7.4V
容量....................................860mAh
使用可能温度.....................充電時：＋6℃～＋40℃
撮影時：0℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ................................約36.2（幅）×14.7（高さ）×49.0（奥行）mm
質量....................................約45g

■バッテリーチャージャー LC-E10

充電可能電池.....................バッテリーパック LP-E10
充電時間............................約2時間（常温時）
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................DC8.3V/580mA
使用可能温度.....................＋6℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下
大きさ................................約67.0（幅）×30.5（高さ）×87.5（奥行）mm
質量....................................約85g

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II

画角....................................対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数............................9群11枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離.....................0.25m（撮像面から）
最大撮影倍率.....................0.34倍（55mm時）
画界....................................207×134mm～67×45mm（0.25m時）
手ブレ補正機能.................レンズシフト式
フィルター径.....................58mm
レンズキャップ.................E-58
最大径×長さ.....................約68.5×70mm
質量....................................約200g
対応フード........................EW-60C（別売）
対応ケース........................LP814（別売）

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

* DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

12

ソフトウェアスタートガイド

この章では、付属のEOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている、各ソフトウェアの概要と、パソコンへのインストール方法、およびソフトウェア使用説明書（CD-ROM）に収録されているPDFファイルの見かたを説明しています。

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアスタートガイド

イオス　デジタル　ソリューション　ディスク
EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

イオス　ユーティリティー
EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うことができるソフトウェアです。

デジタル　フォト　プロフェッショナル
Digital Photo Professional

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したままで編集することができます。

ズームブラウザー　イーエックス　イメージブラウザー
ZoomBrowser EX (Win)／ImageBrowser (Mac)

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、JPEG画像の閲覧／編集／整理／分類／印刷などができます。また、MOV動画の再生／編集／静止画の取り出しなどを行うこともできます。

ピクチャー　スタイル　エディター
Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。インストールが正しく行われません。
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合でも、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk （CD-ROM）を入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［Canon EOS Digital Installer］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- Macintoshでは、［インストール］をクリックしてください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェア使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、［(マイ) コンピューター］内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 ［Japanese］フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
ZoomBrowser EX／ImageBrowser	ZBx.xW_J_xx	IBx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（バージョン6.0以上）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

13

クイックガイド／索引

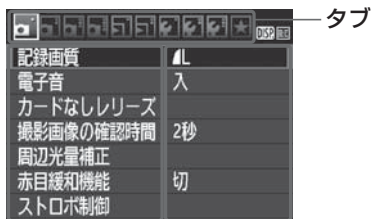
クイックガイド

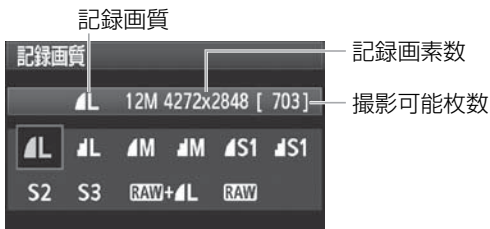
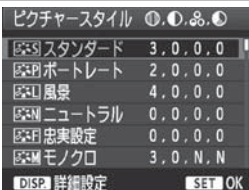
メニュー機能の設定方法

① 〈MENU〉ボタンを押してメニューを表示します。
② 〈◄►〉を押してタブを選び、〈▲▼〉を押して項目を選びます。
③ 〈SET〉を押すと内容が表示されます。
④ 内容を選び、〈SET〉を押します。

かんたん撮影ゾーン

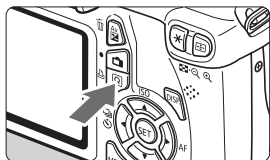
動画撮影モード

応用撮影ゾーン

記録画質

- [◘˙ **記録画質**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈◄►〉を押して記録画質を選び、〈(SET)〉を押します。

ピクチャースタイル 応用

- [◘˙ **ピクチャースタイル**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▲▼〉を押してスタイルを選び、〈(SET)〉を押します。

スタイル	画像特性・内容
S **スタンダード**	色鮮やかで、くっきり
P **ポートレート**	肌色がきれいで、ややくっきり
L **風景**	青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきり
M **モノクロ**	白黒画像

- 〈N〉(ニュートラル)と〈F〉(忠実設定)は、80ページを参照してください。

Q クイック設定

● 〈Q〉ボタンを押します。
➡ クイック設定の状態になります。

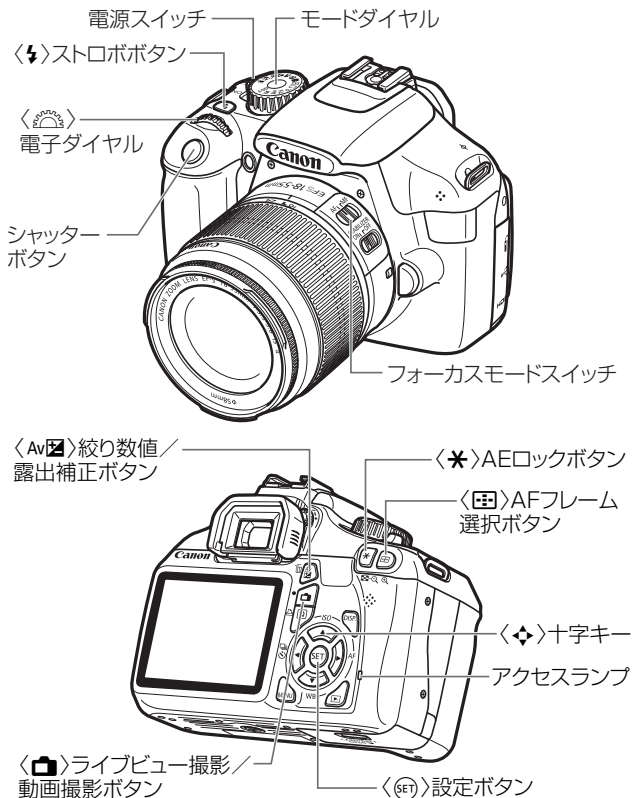
かんたん撮影ゾーン　　**応用撮影ゾーン**

● かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードによって設定できる項目が異なります。
● 〈✥〉十字キーで機能を選び、〈ダイヤル〉を回して設定します。
● 内蔵ストロボを上げるときは、〈ストロボアップ〉を選んで〈SET〉を押します。

各部名称

電源スイッチ
モードダイヤル
〈ϟ〉ストロボボタン
〈 〉電子ダイヤル
シャッターボタン
フォーカスモードスイッチ
〈Av☒〉絞り数値／露出補正ボタン
〈✱〉AEロックボタン
〈⊞〉AFフレーム選択ボタン
〈✣〉十字キー
アクセスランプ
〈◘〉ライブビュー撮影／動画撮影ボタン
〈SET〉設定ボタン

撮影機能の設定状態表示

ファインダー内表示

かんたん撮影ゾーン

撮影に必要な設定がすべて自動設定され、シャッターボタンを押せば、カメラまかせで撮影できます。

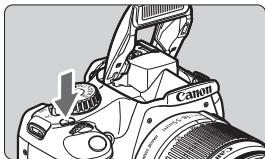
全自動	風景
ストロボ発光禁止	クローズアップ
CA クリエイティブ全自動	スポーツ
ポートレート	夜景ポートレート

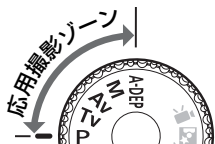
- 〈Q〉ボタンを押すとクイック設定画面が表示されます。CA/ / / / / は、〈▲▼〉を押して項目を選び、〈◄►〉または〈 〉で内容を設定します。

内蔵ストロボ撮影

かんたん撮影ゾーン

暗いときや日中逆光時に、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します（〈 〉〈 〉〈 〉を除く）。

応用撮影ゾーン

- 〈 〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げてから撮影します。

応用撮影ゾーン

カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影をすることができます。

P: プログラムAE撮影

〈□〉と同じように、シャッター速度と絞り数値が自動的に設定されます。

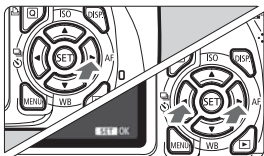
- モードダイヤルを〈**P**〉にします。

Tv: シャッター優先AE

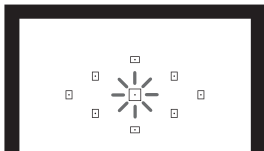
- モードダイヤルを〈**Tv**〉にします。
- 〈〉を回し、シャッター速度を設定して、ピントを合わせます。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。
- 数値が点滅するときは、点滅が止まるまで〈〉を回します。

Av: 絞り優先AE

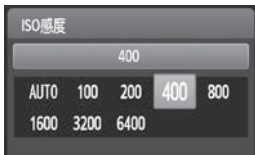
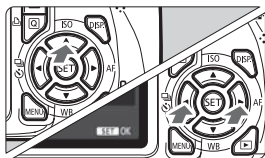
- モードダイヤルを〈**Av**〉にします。
- 〈〉を回し、絞り数値を設定して、ピントを合わせます。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。
- 数値が点滅するときは、点滅が止まるまで〈〉を回します。

AF：AFモード 応用

● レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にします。
● 〈► AF〉ボタンを押します。
● 〈◄►〉または〈ダイヤル〉で選び、〈SET〉を押します。

ONE SHOT（ワンショットAF）：
止まっている被写体を撮るとき
AI FOCUS（AIフォーカスAF）：
AFモードを自動切り換え
AI SERVO（AIサーボAF）：
動いている被写体を撮るとき

AFフレーム 応用

● 〈AFフレーム〉ボタンを押します。

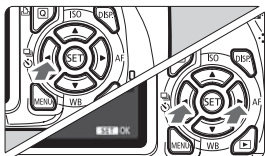
● 〈十字キー〉十字キーを押して選びます。
● ファインダーをのぞきながらAFフレームを選ぶときは、〈ダイヤル〉を回して赤く光る点を移動させます。
● 〈SET〉を押すと、中央のAFフレームと自動選択が交互に切り換わります。

ISO: ISO感度 応用

- 〈▲ISO〉ボタンを押します。
- 〈◄►〉または〈⚙〉で選び、〈SET〉を押します。
- [**AUTO**]のときはISO感度が自動設定されます。シャッターボタンを半押しすると、設定されたISO感度が表示されます。

ドライブモード 応用

- 〈◄ ドライブ/セルフタイマー〉ボタンを押します。
- 〈◄►〉または〈⚙〉で選び、〈SET〉を押します。

□ ：**1枚撮影**

連続 ：**連続撮影**

セルフ ：**セルフタイマー：10秒***

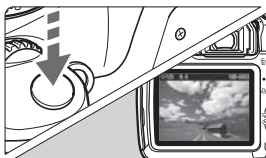
セルフ2：**セルフタイマー：2秒**

セルフC：**セルフタイマー：連続撮影***

* 〈セルフ〉〈セルフC〉はどの撮影モードでも選択できます(〈動画〉モードを除く)。

◘ ライブビュー撮影

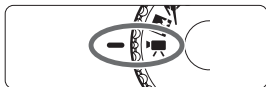
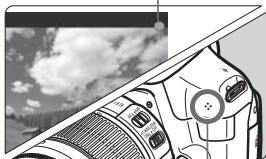
● 〈◘〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

● シャッターボタンを全押しして、撮影します。

● ライブビュー撮影の設定は、かんたん撮影ゾーンではメニューの[◘']タブで、応用撮影ゾーンはメニューの[◘:]タブで行います。

● **撮影可能枚数の目安(ライブビュー撮影時)**

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温(+23℃)	約240枚	約220枚

動画撮影

● モードダイヤルを〈 〉にします。

● シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
(〈 〉モードのときは、シャッターボタンを全押ししても静止画は撮影できません)

● 〈 〉ボタンを押すと動画撮影が始まります。
● もう一度〈 〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

動画撮影中

マイク

画像の再生

索　引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2011年1月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH - J047 - 001